

本学職員の研究業績目録

これは1963年（昭和38年）11月30日現在における研究論文、著書目録である。

宮道悦男

I アミノ酸誘導体の閉環に関する研究

- 1) P. Karrer, E. Miyamichi, H. C. Storm, Rose Widmer: Zur Kenntnis der Anhydride Acylierter Aminosäuren (Helv. Chim. Acta. **8**, 205(1926)).
- 2) P. Karrer, E. Miyamichi: Überführung einer β -Aminosäure in ein Metoxazinderivat (Helv. Chim. Acta. **9**, 336 (1927)).
- 3) 宮道悦男: アチルアミノ酸エステルのチアゾール環構成について (薬誌 **46**, 103(1926)).
- 4) 宮道悦男: アチルアミノ酸誘導体の環状構成について (薬誌 **46**, 645 (1926)).
- 5) 宮道悦男: β -アラニン誘導体の研究(1) グリチル β -アラニンエチルエステルの合成 (薬誌 **46**, 950 (1926)).
- 6) 宮道悦男: アチルアミノ酸の脱水成績体の研究 (薬誌 **47**, 863 (1927)).
- 7) 宮道悦男: β -アラニン誘導体の研究(2) アチル β -アラニンエステルのメタディアチン環構成 (薬誌 **48**, 802 (1928)).
- 8) 宮道悦男: β -アラニン誘導体の研究(3) アチル β -アラニンアミド誘導体のメタディアチン環構成 (薬誌 **48**, 807 (1928)).
- 9) 宮道悦男: アミノ酸閉環体の重合物質について (薬誌 **50**, 1100 (1930)).

II 植物成分に関する研究

- 1) 宮道悦男, 山田秀夫: 小豆の石鹼態化合物について (薬誌 **50**, 1095 (1930)).
- 2) 宮道悦男, 大西静雄: 小豆の結晶性サポニン配糖体について (薬誌 **52**, 168 (1932)).
- 3) 宮道悦男, 野村新太郎: くすのき科植物種子油脂の化学的研究(1) はまびわ種子油脂の脂肪酸の研究 (薬誌 **73**, 169 (1953)).
- 4) 宮道悦男, 吉田 裕: タンニン酸及びピロガロールの製造研究 (1947).

III その他の研究

- 1) 宮道悦男, 千田重男: Ethylenediamine Tetraacetic Acid-2Na·Ca 錯塩の合成について (岐阜薬大紀要 **4**, 30 (1954)).
- 2) 宮道悦界, 吉田 裕: Hamamelis 属植物葉の生薬学的研究 (日本学術協会報告 **18**, (2), (1940)).
- 3) 宮道悦男, 杉浦 衛: 重曹がシアスターの糖化力におよぼす影響 (岐阜薬大紀要 **2**, 14 (1952). 薬剤部長会年報 **11**, 38(1952)).
- 4) 宮道悦男, 加藤好夫, 杉浦 衛: サリチル酸ナトリウム水溶液の安定剤について (薬剤部長会年報 **12**, 82(1953)).

- 5) 宮道悦男, 小瀬洋喜: 有機化合物の生化学的環元(2) (岐阜薬大紀要 6, 27 (1956)).
 6) 宮道悦男, 小瀬洋喜: 有機化合物の生化学的還元(3) (岐阜薬大紀要 6, 31 (1956)).

総 説

- 1) 宮道悦男, 千田重男: 最近の抗凝固剤について (岐阜薬大紀要 4, 1 (1954)).

著 書

- 宮道悦男: 植物成分研究法 (南山堂) (1935)
 宮道悦男: 合成薬化学 (金原書店) (1941)
 宮道悦男, 中沢浩一: 有機合成化学 (広川書店) (1949)
 宮道悦男, 鳴野 武: 動植物成分 (共立社) (1952)
 宮道悦男, 松浦 信, 伊藤一男: 最新植物成分研究法 (広川書店) (1962)

鳴野 武

I 生薬学的研究

- 1) 鳴野武, 吉田裕: 枯棲及び王瓜の生薬学的研究 (第1報) (薬誌 58, 240 (1938)).
 2) 木村康一, 鳴野武, 原田利一: 黄連の剖見 (第1報) 北京市場品について (岐阜薬大紀要 2, 179 (1952)).
 3) 木村康一, 鳴野武, 原田利一: 黄連の生薬学的研究 (第1報) 中国市場の黄連 (生薬学雑誌 6, 1 (1952)).
 4) 鳴野 武, 水野瑞夫, 鈴木富子: オウレンの生薬学的研究 (第1報) オウレンの分布と Polisade ratio について (岐阜薬大紀要 10, 51 (1960)).
 5) 鳴野 武, 野村新太郎, 伊藤澄男: 市販瞿麦子について (岐阜薬大紀要 7, 46 (1957)).

II 植物成分に関する研究

- 1) 鳴野 武, 寺田 力: 五加皮の成分研究 (岐阜薬大紀要 1, 1 (1951)).
 2) 鳴野 武, 野村新太郎: イブキジヤコウソウの成分 (第1報) 精油成分 (薬誌 72, 1648 (1952)).
 3) 鳴野 武, 滝 和子, 東 光男: トリテルペノイドの研究 (第1報) トリテルペンの呈色反応について (岐阜薬大紀要 5, 1 (1955)).
 4) 鳴野 武, 滝 和子: トリテルペノイドの研究 (第2報) ペーパークロマトグラフィーによるトリテルペノイドの検出について (その1) (岐阜薬大紀要 8, 24 (1958)).
 5) 鳴野 武, 滝 和子: トリテルペノイドの研究 (第3報) ペーパークロマトグラフィーによるトリテルペノイド配糖体の検出について (その1) (岐阜薬大紀要 8, 27 (1958)).
 6) 鳴野 武, 水野瑞夫, 井上純男: トリテルペノイドの研究 (第4報) 濾紙微量電気泳動法によるトリテルペノイドの検討 (I) (岐阜薬大紀要 5, 7 (1955)).
 7) 鳴野 武, 水野瑞夫, 井上純男: トリテルペノイドの研究 (第5報) 濾紙微量電気泳動法によるトリテルペノイドの検討 (II) (岐阜薬大紀要 6, 35 (1956)).
 8) 鳴野 武, 水野瑞夫, 井上純男: トリテルペノイドの研究 (第6報) 濾紙微量電気泳動法によるトリテ

- ルペノイドの検討(III) (岐阜薬大紀要 6, 35 (1956)).
- 9) 嶋野 武, 滝 和子, 河西明夫: トリテルペノイドの研究(第7報)ペーパークロマトグラフィーによるトリテルペノイドの検出について(その2) Ericaceae 植物中のトリテルペノイドの分布(岐阜薬大紀要 8, 30 (1958)).
 - 10) 嶋野 武, 滝 和子, 山本達郎: トリテルペノイドの研究(第8報)ペーパークロマトグラフィーによるトリテルペノイド配糖体の検出について(その2) Ericaceae 植物中のトリテルペノイド配糖体の分布(岐阜薬大紀要 8, 33 (1958)).
 - 11) 嶋野 武, 水野瑞夫, 岡本浩子, 足立郁夫: トリテルペノイドの研究(第9報)夏枯草の新成分について; ウルソール酸(薬誌, 76, 974 (1956)).
 - 12) 嶋野 武, 水野瑞夫, 足立郁夫: トリテルペノイドの研究(第10報)キソケイの成分について; ウルソール酸, オレアノール酸(薬誌 77, 1038 (1957)).
 - 13) 嶋野 武, 野村新太郎, 山本正史: アゼムシロの成分研究(岐阜薬大紀要 3, 12 (1953)).
 - 14) 嶋野 武, 水野瑞夫, 井関鈴子: 禾本科植物のフラボノイドの研究(予報)(岐阜薬大紀要 4, 136 (1954)).
 - 15) 嶋野 武, 野村新太郎: マンサク樹皮成分に就て(岐阜薬大紀要 2, 21 (1952)).
 - 16) 嶋野 武, 小瀬洋喜: 黄蜀葵の成分研究(第1報)(岐阜薬大紀要 3, 15 (1953))
 - 17) 嶋野 武, 滝 和子, 後藤慶子: 薺類成分の研究(1)カワラタケの成分について(岐阜薬大紀要 3, 43 (1953)).
 - 18) 嶋野 武, 水野瑞夫: テイカカズラの成分(予報)(岐阜薬大紀要 4, 139 (1954)).

III 動物成分に関する研究

- 1) 嶋野 武, 水野瑞夫, 尾藤 正: マメハニミョウ並びに類似昆虫のカンタリシン, 遊離アミノ酸に就て(岐阜薬大紀要 3, 44 (1953)).

IV 試験法に関する研究

- 1) 嶋野 武, 野村新太郎, 黒井 弘: 黄柏中よりベルベリン塩酸塩の抽出検討(岐阜薬大紀要 4, 33 (1954)).
- 2) 嶋野 武, 野村新太郎, 山川和男: 刻木通の異物について(岐阜薬大紀要 5, 4 (1955)).
- 3) 嶋野 武, 水野瑞夫, 大和新一郎: 麻黄中のアルカロイドの簡易定量法について(薬誌 76, 360 (1956)).
- 4) 嶋野 武, 水野瑞夫: 毛管分析のバリットによる星色(岐阜薬大紀要 9, 31 (1959)).

V 薬 学 史

- 1) 嶋野 武, 水野瑞夫, 江崎秀子: 飯沼惣斎小史(1) 飯沼惣斎遺稿による採集地の考察(岐阜薬大紀要 11, 29 (1961)).

VI 植 物 分 布 地 理

- 1) 嶋野 武, 水野瑞夫: 岐阜薬科大学臘葉目録(1) (植物分布地理研究) 日本アルプスの植物目録(岐阜薬

- 大紀要 11, 39 (1961)).
- 2) 鳴野 武, 水野瑞夫: 岐阜薬科大学薬目録(2) (植物分布地理研究) 位山岐阜大学農学部附属演習林植物目録(1) (岐阜薬大紀要 12, 69 (1962)).
 - 3) 鳴野 武, 水野瑞夫: 岐阜薬科大学薬目録(3) (植物分布地理研究) 石徹白植物目録(1) (岐阜薬大紀要 12, 76 (1962)).

著　　書

- 鳴野 武 (共著) : 動植物民間薬提要 (南江堂) (1936).
- 鳴野 武 (共著) : 動植物成分 (共立出版株式会社) (1952).
- 鳴野 武 (共著) : 第二改正国民医薬品集註解 (南江堂) (1959).

中　沢　浩　一

I Ikaritin および Anhydroikaritin の各完全メチル誘導体の合成に関する研究 (イカリソウ属植物の配糖体 Ikaritin の化学構造に関する研究)

- 1) 赤井左一郎, 中沢浩一: イカリソウ属植物の成分研究 (第3報) 一新フラボン配糖体イカリインの化学構造研究 (その3) Anhydroikaritol および Anhydroikaritin-trimethyläther の合成 (薬誌 55, 720~727 (1935)).
- 2) 赤井左一郎, 中沢浩一: 同上 (第4報) 同上 (その4) Ikaritol および Ikaritin-trimethyläther の合成 (薬誌 55, 788~799 (1935)).

II Primetin (5,8-ジヒドロキシフラボン) (ユキワリソウのフラボン) の合成に関する研究

- 1) 中沢浩一: レゾルシンの γ -置換誘導体に関する研究 (第1報) γ -レゾルシリアルデヒドの合成 (薬誌 59, 169~176 (1939)).
- 2) 中沢浩一: 同上 (第2報) 3-ホルミルレズアセトフェノン, 3-アセチル- β -レゾルシリアルデヒドならびに 2,3,6-トリオキシアセトフェノンの合成 (薬誌 59, 297~302 (1939)).
- 3) 中沢浩一: 同上 (第3報) 5,6-ジメトキシフラボンの合成 (薬誌 59, 495~499 (1939)).
- 4) 中沢浩一: 同上 (第4報) 5,6-ジオキシフラボンについて (薬誌 59, 521~524 (1939)).
- 5) 中沢浩一: 同上 (第5報) Primetin (5,8-ジオキシフラボン) の合成 (薬誌 59, 524~530 (1939)).

III γ -アルキルジヒドロレゾルシン類の合成に関する研究

- 1) 中沢浩一, 松浦 信: レゾルシンを母体とする薬剤の合成に関する研究 (第6報) ジヒドロレゾルシンの原料としての γ -アセチル酪酸エステルの合成法について (薬誌 71, 178~181 (1951)).
- 2) 中沢浩一, 松浦 信: 同上 (第7報) γ -ブチリル酪酸エステルの新合成法 (薬誌 71, 802~804 (1951)).
- 3) 中沢浩一, 松浦 信: 同上 (第8報) 閉環によるジヒドロレゾルシンおよび γ -エチルジヒドロレゾルシンの合成について (薬誌 71, 805~806 (1951)).
- 4) 中沢浩一; 松浦 信: 同上 (第9報) γ -n-ブチルジヒドロレゾルシンの合成および γ -アルキルジヒドロレゾルシン類合成の総括 (薬誌 72, 51~54 (1952)).

IV 8-および6-(*p*-ヒドロキシフェナシル)-5,7,4'-トリヒドロキシフラボンの
メチルエーテル類の合成に関する研究 (Ginkgetin の分解フラボンの化学
構造に関する研究)

- 1) 中沢浩一, 松浦 信: フラボノイドおよび近縁化合物の核置換体の合成研究(第1報) アカセチン-7-メチルエーテルのクロルメチル化反応(その1) 2種のクロルメチル化合物の分離およびそれらの誘導体(薬誌 73, 481~484(1953)).
- 2) 中沢浩一, 松浦 信: 同上(第2報) アカセチン-7-メチルエーテルのクロルメチル化反応(その2) mp 218° (decomp) のクロルメチル化合物の構造(8-メチルアカセチン-7-メチルエーテルの合成)(薬誌 73, 484~486 (1953)).
- 3) 中沢浩一, 松浦 信: 同上(第3報) アカセチン-7-メチルエーテルのクロルメチル化反応(その3) mp 185° (decomp) のクロルメチル化合物の構造(薬誌 73, 751~754 (1953)).
- 4) 中沢浩一, 松浦 信: 同上(第4報) 8-(*p*-ヒドロキシフェナシル)-5,7,4'-トリヒドロキシフラボンのメチルエーテル類の合成(ギングチニン分解フラボンの化学構造について)(その1)(薬誌 74, 40~42 (1954)).
- 5) 中沢浩一, 松浦 信: 同上(第5報) 8-(β -アニソイルエチル)-5,7,4'-トリヒドロキシフラボンのメチルエーテル類の合成(ギングチニン分解フラボンの化学構造について)(その2)(薬誌 75, 68~71 (1955)).
- 6) 中沢浩一, 松浦 信: 同上(第6報) 8-メチルアカセチン-5,7-ジメチルエーテルおよび8-(β -カルボキシエチル)-5,7,4'-トリメトキシフラボンの新合成法(薬誌 75, 467~469 (1955)).
- 7) 中沢浩一, 坪内幸恵: 同上(第7報) ギングチニン分解フラボンの化学構造について(その3) 6-(*p*-ヒドロキシフェナシル)-5,7,4'-トリヒドロキシフラボンのメチルエーテル類の合成(薬誌 75, 716~719 (1955)).
- 8) 中沢浩一, 坪内幸恵, 榎田康衛: 同上(第8報) 6-アセチル-5,7,4'-トリメトキシフラボンの脱メチル化反応(薬誌 76, 1204~1206 (1956)).

V ポリリン酸存在の遊離カルボン酸によるフェノール化合物の新アシル化反応に関する研究
(縮合剤としてのポリリン酸の応用研究).

- 1) 中沢浩一, 松浦 信: 縮合剤としてのポリリン酸の応用に関する研究(第1報) カルボン酸によるフェノールのアシル化(フェノールの新アシル化法)(薬誌 74, 69~72 (1954)).
- 2) 中沢浩一, 松浦 信, 楠田貢典: 同上(第2報) カルボン酸による石炭酸およびアニソールの核アシル化反応(4-ヒドロキシおよび4-メトキシアシロフェノンの合成)(薬誌 74, 495~497 (1954)).
- 3) 中沢浩一, 松浦 信, 馬場茂雄: 同上(第3報) 安息香酸およびモノヒドロキシ安息香酸によるフェノール化合物のアシル化(薬誌 74, 498~501 (1954)).
- 4) 中沢浩一: 同上(第4報) カテコール, レゾルシン, レズアシロフェノンおよびそれらのメチルエーテル類の核アシル化反応(薬誌 74, 836~839 (1954)).
- 5) 中沢浩一, 松浦 信: 同上(第5報) カルボン酸によるフロログルシンおよびそのメチルエーテル類の核アシル化反応(薬誌 74, 1254~1255 (1954)).
- 6) 中沢浩一, 坪内幸恵: 同上(第6報) カルボン酸による α -ナフトールの核アシル化反応(薬誌 74, 1256

～1258 (1954)).

- 7) 中沢浩一, 楠田貢典: 同上(第7報) カルボン酸の化学構造と石炭酸に関する核置換能力との関係(薬誌 75, 257～260 (1955)).
- 8) 中沢浩一, 馬場茂雄: 同上(第8報) 置換安息香酸による石炭酸のアシル化(薬誌 75, 378～381 (1955)).

VI Ginkgetin (イチョウ葉のフラボン) の分解法による化学構造の研究

- 1) 中沢浩一: イチョウ葉のフラボン Ginkgetin の構造研究(薬誌 61, 174～184 (1941)).
- 2) 中沢浩一: Ginkgetin の苛性カリ水溶液による分解について (“イチョウ葉のフラボン化合物 Ginkgetin の構造研究” 補遺)(薬誌 61, 228～229 (1941)).

VII Ginkgetin およびそのメチルエーテル類の合成に関する研究

- 1) K. Nakazawa: Synthesis of Ginkgetin Tetramethyl Ether (Chem. Pharm. Bull. 7, 748～749 (1959)) (予報).
- 2) K. Nakazawa: Syntheses of Nuclear-substituted Flavonoids and Allied Compounds. IX. Syntheses of Tetramethyl Ether and Dimethyl Ether of Ginkgetin (Chem. Pharm. Bull. 10, 1032～1038 (1962)).
- 3) K. Nakazawa and M. Ito: Synthesis of Ginkgetin (Tetrahedron Letters No.8. 317～319 (1962)) (予報).
- 4) K. Nakazawa and M. Ito: Syntheses of Nuclear-substituted Flavonoids and Allied Compounds. X. Synthesis of Ginkgetin (Chem. Pharm. Bull. 11, 283～288 (1963)).

VIII その他の研究

- 1) 赤井左一郎, 中沢浩一: ウラジロの成分について(第1報)(薬誌 53, 891～903 (1933)).
- 2) 中沢浩一, 春日井 昇: トロピン系アルカロイドに関する研究(第1報) ロート根より L-ヒヨスチアミンの一製造法(薬誌 71, 800～802 (1951)).
- 3) 中沢浩一, 松浦 信: 濃オルト磷酸によるカルコンのフラバノン閉環(薬誌 75, 469～470 (1955)).
- 4) 中沢浩一, 宮田艶子: フェノール性水酸基の新ベンシリ化反応(薬誌 82, 927～928 (1962)).

総 説

- 1) 中沢浩一: イチョウ葉のフラボン化合物ギングチンの構造研究(岐阜薬大紀要 1, 46～56 (1951)).
- 2) 中沢浩一: ギングチンの化学構造(岐阜薬大紀要 12, 1～18 (1962)).

著 書

- 中沢浩一: 有機化学文献の調べ方(第2改稿版)(広川書店)(1960).
宮道悦男, 中沢浩一: 反応別有機化合物実験法集成(広川書店)(1959).

高取吉太郎

I 生化学に関する研究

- 1) 高取吉太郎, 石黒伊三雄, 浅野進吾, 堀 康二, 平松保造: 担癌動物の代謝に関する生化学的研究(第1報) 3-アミノ-s-トリアゾールおよび構造類似体の肝力タラーゼ阻害について(薬誌 83 (6), 648~652 (1963)).
- 2) 高取吉太郎, 石黒伊三雄, 浅野進吾, 萩谷博磁, 岡本正敏, 河野隆一, 森島邦雄: 同上(第2報) DAB 投与ラット尿中アミノ酸について(薬誌 83 (10), 981~987 (1963)).
- 3) 高取吉太郎, 高島睦雄: メラトニンの合成(薬誌 83 (8), 795~799 (1963)).
- 4) Yosoji Ito, Chiaki Moriwaki, Michio Ui, Yasuo Gomi, Katsumi Wakabayashi, Kichitaro Takatori, Yasuo Yamada, Shingo Asano: The Effect of Derivatives of IPTD on Blood Sugar and Glucagon Content of Pancreas. (Endocrinologia Japonica 7, 347~352 (1960)).
- 5) 高取吉太郎, 山田保雄: 3,4-ジメチルアニリン及び関連化合物の合成(薬誌 75 (7), 881~883 (1955)).
- 6) 高取吉太郎, 石黒伊三雄, 社本みと子, 内藤純子: DAB 投与ラッテの肝臓内銅量の変動について(岐阜薬大紀要 11, 39~42 (1961)).
- 7) 石黒伊三雄, 高取吉太郎, 内藤純子, 原田治良: 王乳の栄養学的研究(第3報) 王乳中に含まれる螢光物質とキヌレニンの含有量について(岐阜薬大紀要 13, 10 (1963)).
- 8) Toshio Segi and Kichitaro Takatori: Colorimetric Determination of Bromine in the Marine Algae. (Report of Faculty of Fisheries, Prefectural University of Mie, 1, 209~214 (1952)).
- 9) Kichitaro Takatori, Terushige Kato, Shingo Asano, Masayori Ozaki and Toshio Nakashima: Choline in *Panax Ginseng* C. A. Meyer. (Chem. Pharm. Bull. 11 (10), 1342 (1963)).

II 化学療法及び薬理学に関する研究

- 1) 高取吉太郎: ズルフォンアミド剤合成の研究(第1報) ロダン系ズルフォンアミドの合成(その1)(薬誌 67 (12), 191~192 (1947)).
- 2) 高取吉太郎, 西田日吉: 同上(第2報) ロダン系ズルフォンアミドの合成(その2)(薬誌 70 (5), 271 ~277 (1950)).
- 3) 高取吉太郎, 長田 康: 同上(第3報) 化学療法剤としてのロダン系ズルフォンアミド(薬誌 72 (1), 111~116 (1952)).
- 4) 高取吉太郎, 山田保雄, 高木 太, 奥田高千代: 同上(第4報) N¹-Acylsulfanilamide の合成に就いて(薬誌 72 (3), 426~430 (1952)).
- 5) 高取吉太郎, 山田保雄: 同上(第5報) N¹-3,4-Dimethylbenzoylsulfanilamide (Irgafen) の合成に就いて(薬誌 73 (2), 115~118 (1953)).
- 6) 高取吉太郎, 山田保雄: 同上(第6報) N¹-3,4-Dimethylbenzoylsulfanilamide (Irgafene) の合成に就いて(続報)(薬誌 74 (10), 1120~1122 (1954)).
- 7) 高取吉太郎, 山田保雄: 同上(第7報) 含弗素 N-ズルファニリルベンズアミド誘導体の合成(薬誌 78 (5), 546~548 (1958)).

- 8) 高取吉太郎, 山田保雄, 浅野進吾: 同上(第8報) IPTD系血糖低下ズルフォンアミド剤の合成(薬誌 **79** (7), 913~919 (1959)).
- 9) 高取吉太郎, 奥田高千代, 原 茂: *p*-Hydroxybenzenesulfonamide誘導体の合成(第1報)(薬誌 **71** (12), 1371~1372 (1951)).
- 10) 高取吉太郎, 原 茂, 山田保雄: 同上(第2報)(岐阜薬大紀要 **6**, 55~58 (1956)).
- 11) 高取吉太郎, 西田日吉: 2-アミノチアゾールのロダン化(第1報)(薬誌 **74** (12), 1367~1370 (1951)).
- 12) 高取吉太郎, 浅野進吾: 同上(第2報)(薬誌 **80** (6), 789~790 (1960)).
- 13) 高取吉太郎, 浅野進吾, 長田 慶, 伊藤昭生: 同上(第3報)化学療法剤としての2-アミノ-5-ロダン-チアゾール誘導体について(岐阜薬大紀要 **12**, 27~33 (1962)).
- 14) 高取吉太郎, 山田保雄: サリチルアミドの合成に就いて(薬誌 **74** (7), 785 (1954)).
- 15) 高取吉太郎, 山田保雄, 新井敏夫, 中沢隆一: 含弗素有機化合物合成の研究(第1報)5-フルオロベンツイミダゾールの合成(薬誌 **78** (2), 108~109 (1958)).
- 16) 高取吉太郎, 久田四郎, 山田保雄, 中島敏夫, 酒井 勇, 浅野進吾: 同上(第2報)弗素置換アミノエチルベンツヒドリルエーテル系化合物の合成および薬理学的研究(薬誌 **80** (12), 1759~1764 (1960)).
- 17) 高取吉太郎, 山田保雄: 樟脑或はFenchonを原料とする3,4-ジメチル安息香酸の製法(岐阜薬大紀要 **4**, 97~102 (1954)).
- 18) 高取吉太郎, 浅野進吾: キアンメチン製造条件の検討について(岐阜薬大紀要 **7**, 60 (1957)).
- 19) 高取吉太郎, 山田保雄: *o*-トルイジンのズルフォン化について(岐阜薬大紀要 **7**, 61~62 (1957)).
- 20) 高取吉太郎, 浅野進吾, 白井文夫: 4-メチルアントラニル酸の合成(岐阜薬大紀要 **8**, 35~37 (1958)).

III 新アシリ化反応に関する研究

- 1) 高取吉太郎, 上田晶国: 安息香酸フェニルに依るベンゾイル化(第1報)芳香族アミン及び異項環アミンのベンゾイル化(薬誌 **71** (12), 1373~1377 (1951)).
- 2) 高取吉太郎, 上田晶国: 同上(第2報)芳香族ズルフォンアミドのベンゾイル化(薬誌 **71** (12), 1377~1380 (1951)).
- 3) 高取吉太郎: 同上(第3報)安息香酸フェニル誘導体の分子内置換について(薬誌 **73** (6), 548~551 (1953)).
- 4) 高取吉太郎: 同上(第4報)置換基を有する安息香酸フェニルによるベンゾイル化(薬誌 **73** (8), 810~817 (1953)).

総 説

- 1) 高取吉太郎: 癌化学療法の展望(岐阜薬大紀要 **6**, 1~16 (1956)).
- 2) 高取吉太郎: 人工分裂症誘発物質と精神病治療剤の展望(岐阜薬大紀要 **8**, 1~12 (1958)).
- 3) 高取吉太郎: フッ素を含む薬(化学 **16** (8), 677~682 (1961)).
- 4) 高取吉太郎: 抗糸状菌物質の研究(薬局の領域 **10** (10), 49~51 (1961)).

著 書

- 1) 太田達男, 石川信雄, 一番ヶ瀬 尚, 高取吉太郎(分担執筆): 生化学(広川書店) (1958).

- 2) 太田達男, 石川信雄, 一番ヶ瀬尚, 高取吉太郎, 石黒伊三雄(分担執筆) : 生化学実験書(広川書店)(1959).
- 3) 赤松金芳, 石黒伊三雄, 伊藤信也, 佐藤文比古, 高取吉太郎, 武部虎一, 辰濃尚次郎, 林 栄一, 山上一香, 山田 澄(分担執筆) : 薬物学実験書(広川書店)(1960).
- 4) 飯田英夫, 石原政雄, 大塚昭信, 岡林一蔵, 乙益寛隆, 河合 洋, 小松曼耆, 佐久間礼三郎, 清水辰太, 高尾樽雄, 高田豊造, 高取吉太郎, 多田敬三, 富松祥郎, 堀 幹夫, 吉名重多賀(分担執筆) : 化学実験操作書(広川書店)(1959).
- 5) 高取吉太郎: 2-Benzamidothiazole(製法). 有機化合物合成法集成 XIII, 14~16(技報堂)(1961).
- 6) 高取吉太郎: N¹-p-Chlorobenzoylsulfanilamide(製法). 有機化合物合成法集成 XIII, 26~28(技報堂)(1961).

加 藤 好 夫

I 薬剤の安定性に関する研究

- 1) 宮道悦男, 加藤好夫, 杉浦 衛: サリチル酸ナトリウム溶液の安定剤について(薬剤学 12, 82(1953)).
- 2) 野上 寿, 加藤好夫: ペニシリン点眼剤の安定化(薬剤学 13, 67(1954)).
- 3) 加藤好夫, 杉浦 衛: ペプシン含有液剤の安定性について(薬剤学 13, 92(1954)).
- 4) 加藤好夫, 杉浦 衛: ペプシン含有液剤の安定性について(続報)(薬剤学 14 (2), 14(1954)).
- 5) 加藤好夫, 杉浦 衛: ビタミンCの安定性の研究(第1報) 微量金属の影響について(岐阜薬大紀要 6, 59(1956)).
- 6) 加藤好夫, 杉浦 衛: ビタミンCの安定性の研究(第2報) ビタミンCの顆粒について(岐阜薬大紀要 6, 62(1956)).
- 7) 加藤好夫, 杉浦 衛, 山田鋪義: ビタミンCの安定性の研究(第3報) ビタミンC水剤の検討(岐阜薬大紀要 8, 37(1958)).
- 8) 加藤好夫: ビタミンCの安定性に関する研究(岐阜薬大紀要 11, 42(1961)).
- 9) 石黒伊三雄, 加藤好夫, 杉浦 衛: ビタミンB₂の光分解機構とその安定性に関する検討(岐阜薬大紀要 8, 49(1958)).

II 軟膏基剤に関する研究

- 1) 加藤好夫, 杉浦 衛, 神山宏子: 軟膏剤の研究(第1報) 浸透性の増強について(薬剤学 18 (3), 195(1958)).
- 2) 加藤好夫, 杉浦 衛, 坪内全治: 軟膏剤の研究(第2報) 経皮吸収について(岐阜薬大紀要 10, 55(1960)).

III 界面活性剤の製剤学的研究

- 1) 加藤好夫: ポリエチレングリコールアルキルエステルの合成とその製剤学的利用研究(第1報)(薬剤学 15 (4), 204(1955)).

総 説

- 1) 加藤好夫: 医薬としての尿素(薬局 1, 358(1950))

- 2) 加藤好夫: 防水剤 (薬局 **2**, 876 (1951)).
- 3) 加藤好夫: 薬剤の安定性 (薬局 **6**, 27 (1955)).
- 4) 加藤好夫: 界面活性剤の進歩 (岐阜薬大紀要 **4**, 4 (1954)).

著　　書

加藤好夫 (分担執筆) : 最新薬剤学 (改訂版) (広川書店) (1962).
 加藤好夫 (分担執筆) : 薬剤学実験 (改訂版) (広川書店) (1962).

竹　中　英　雄

I 薬剤の可溶化に関する研究

- 1) 竹中英雄, 伊藤 元: 可溶化薬剤に関する研究 (第1報) 可溶化アドレナリンについて (岐阜薬大紀要 **8**, 43 (1958)).
- 2) 竹中英雄, 伊藤 元: 可溶化薬剤に関する研究 (第3報) 可溶化アスピリンについて (岐阜薬大紀要 **11**, 52 (1961)).
- 3) 竹中英雄, 伊藤 元, 松本信子: Tween 系界面活性剤によるキナルカロイドの浸出効果について (岐阜薬大紀要 **11**, 59 (1961)).

II ショ糖脂肪酸エステルに関する研究

- 1) 竹中英雄, 伊藤 元, 大橋 芳, 谷野孝子, 岩田博俊: ショ糖脂肪酸エステルの製剤学的応用研究 (第1報) ビタミンAの安定度におよぼす影響について (岐阜薬大紀要 **12**, 33 (1962)).
- 2) 竹中英雄, 伊藤 元, 大橋 芳, 柏野正則: ショ糖脂肪酸エステルの製剤学的応用研究 (第2報) ビタミンAの家兔血中濃度におよぼす影響について (岐阜薬大紀要 **12**, 37 (1962)).

III その他の研究

- 1) 竹中英雄: パラ置換芳香族スルホニウム化合物の研究 (学位論文 (京都大学), 1951)
- 2) 竹中英雄, 伊藤 元, 中原慶子: ハチミツ中のL-アスコルビン酸の安定性について (岐阜薬大紀要 **11**, 56 (1961)).

著　　書

竹中英雄 (分担執筆) : 最新薬剤学 (改訂版) (広川書店) (1962).
 竹中英雄 (分担執筆) : 薬剤学実験 (改訂版) (広川書店) (1963).
 竹中英雄 (分担執筆) : 最新香粧品化学 (広川書店) (1963).
 竹中英雄 (分担執筆) : 最新薬物学 (改訂版) (広川書店) (1963).

大　野　武　男

I ニトロフェノール型化合物の水銀化反応に関する研究

- 1) 大野武男: 二, 三のニトロフェノール類の合成 (岐阜薬大紀要 **4**, 102 (1954)),

- 2) 大野武男: モノニトロフェノール類の水銀化反応に関する研究 (薬誌 76, 713 (1956)).
- 3) 大野武男: ジニトロフェノール類の水銀化反応に関する研究 (薬誌 76, 718 (1956)).
- 4) 大野武男: ニトロナフトール類の水銀化反応に関する研究 (薬誌 76, 722 (1956)).
- 5) 大野武男: ジハイドロオキシベンゼン類のニトロ化合物の水銀化反応に関する研究 (薬誌 76, 726 (1956)).
- 6) 大野武男: サリチル酸および8オキシキノリンのニトロ化合物の水銀化反応に関する研究 (薬誌 76, 729 (1956)).
- 7) 大野武男, 大前雅彦: ニトロソフェノールの水銀錯塩の分光学的研究 (分析化学 投稿中)

II フタレイン系誘導体の水銀化合物に関する研究

- 1) 長瀬雄三, 大野武男: マーキュロクロムの製造条件の検討 (薬学研究 20, 261 (1948), 岐阜薬大紀要 1, 30 (1951)).
- 2) 長瀬雄三, 大野武男, 後藤俊夫: フルオレスセインの化学構造に関する研究 (第1報) 溶液における構造の考察 (薬誌 73, 1033 (1953)).
- 3) 長瀬雄三, 大野武男, 後藤俊夫: フルオレスセインの化学構造に関する研究 (第2報) 固態における構造の考察 (薬誌 73, 1039 (1953)).
- 4) 長瀬雄三, 大野武男: ジブロムフルオレスセインの水銀化合物に関する研究 (第1報) (薬誌 73, 1337 (1953)).
- 5) 長瀬雄三, 大野武男: ジブロムフルオレスセインの水銀化合物に関する研究 (第2報) (薬誌 73, 1340 (1953)).
- 6) 長瀬雄三, 大野武男, 松本 潮: フタレイン系誘導体の水銀化合物に関する研究 (第3報) マーキュロクロムの臭素の置換位について (岐阜薬大紀要 2, 24 (1952)).
- 7) 大野武男: ジニトロハイドロオキシフタレイン類の水銀化反応に関する研究 (薬誌 76, 733 (1956)).
- 8) 大野武男, 森 逸男: フタレイン系誘導体の水銀化合物に関する研究 (第4報) クロロフルオレスセインの合成 (I) (岐阜薬大紀要, 10, 60 (1960)).
- 9) 大野武男, 森 逸男: フタレイン系誘導体の水銀化合物に関する研究 (第5報) マーキュロクロムの臭素の置換位について (その2) (岐阜薬大紀要 12, 40 (1962)).
- 10) 大野武男, 森 逸男: フタレイン系誘導体の水銀化合物に関する研究 (第8報) ハロゲン化フルオレスセインの水銀化反応 (その1) (薬誌 投稿中)

III 定量法, 試験法に関する研究

- 1) 緒方 章, 大野武男: グルクロン酸ならびに複合グルクロン酸の定量法 (第3報) (薬誌 59, 315 (1939)).
- 2) 長瀬雄三, 大野武男, 福田一夫: 避妊薬中の主葉の定量法について (薬剤部長会年報 11, 134 (1952)).
- 3) 長瀬雄三, 大野武男, 井口正信: マーキュロクロムのペーパークロマトグラフと市販品の品質試験 (第1報) (薬剤部長会年報 12, 120 (1953)).
- 4) 長瀬雄三, 大野武男, 矢島寛子: マーキュロクロムのペーパークロマトグラフと市販品の品質試験 (第

2報) (薬剤部長会年報 14, 76 (1954)),

IV 薬理に関する研究

- 1) 大野武男: フエノチアチンの蚊幼虫殺虫効果 (医学と生物学 5, 525 (1949)).
- 2) 大野武男, 上田美奈子: スルホンアミド剤の家兎血中濃度およびアセチル化に及ぼすグルクロロン酸の影響 (岐阜薬大紀要 9, 55 (1959)).

V 植物成分に関する研究

- 1) 大野武男, 河合 洋, 河合睦子: 植物中の無機成分の分析化学的研究 (第1報) 発光分析法による定性およびポーラログラフ法による定量 (隠花植物) (岐阜薬大紀要 9, 41 (1959)).

著書

定性分析実験書 (分担執筆) (広川書店) (1960).

定量分析実験書 (分担執筆) (広川書店) (1960).

物理分析 (分担執筆) (広川書店) (1961).

千田重男

I ウラシル誘導体の研究

- 1) 千田重男, 鈴井明男: Uracil Derivatives and Related Compounds I. Condensation of Monosubstituted Urea and Ethyl Acetoacetate. (Chem. Pharm. Bull. 6, 476 (1958)).
- 2) 千田重男, 鈴井明男: Uracil Derivatives and Related Compounds II. Alkylation of 6-Methyl-2-thiouracil Derivatives. (Chem. Pharm. Bull. 6, 479 (1958)).
- 3) 千田重男, 鈴井明男, 本多 真, 藤村 一: Uracil Derivatives and Related Compounds III. 5-Amino-1,3,6-trialkyluracil Derivatives (I) (Chem. Pharm. Bull. 6, 482 (1958)).
- 4) 千田重男, 鈴井明男, 本多 真: Uracil Derivatives and Related Compounds IV. 5-Amino-1,3,6-trialkyluracil Derivatives (2) (Chem. Pharm. Bull. 6, 487 (1958)).
- 5) 千田重男, 本多 真, 前野恭治, 藤村一: Uracil Derivatives and Related Compounds V. Alkyluracil Derivatives (Chem. Pharm. Bull. 6, 490 (1958)).
- 6) 千田重男, 和泉 弘, 加納三代子, 坪田順子: 6-Methyl-2,4-dimethoxypyrimidine のニトロ化反応について (岐阜薬大紀要 11, 62 (1961)).

II 合成子宮緊縮剤の研究

- 1) 高橋西蔵, 千田重男: 塩基性フェノールアルキルエーテル類の合成 (III) (薬誌 67, 21 (1947)).
- 2) 高橋西蔵, 吉川泰弘, 千田重男: 塩基性フェノールアルキルエーテル類の合成 (IV) (薬誌 67, 44 (1947)).
- 3) 高橋西蔵, 千田重男: 塩基性フェノールアルキルエーテル類の合成 (V) (薬誌 69, 411 (1949)).
- 4) 高橋西蔵, 千田重男, 松井敏三, 堀 幹夫: 塩基性フェノールアルキルエーテル類の合成 (VI) (薬誌 69, 211 (1949)).

- 5) 高橋西蔵, 千田重男, 松井敏三, 堀 幹夫: 塩基性フェノールアルキルエーテル類の合成 (VII) (薬誌 **69**, 288 (1949)).
- 6) 高橋西蔵, 千田重男: 塩基性フェノールアルキルエーテル類の合成 (VIII) (薬誌 **69**, 498 (1949)).
- 7) 高橋西蔵, 千田重男: 塩基性フェノールアルキルエーテル類の合成 (IX) (薬誌 **70**, 37 (1950)).
- 8) 高橋西蔵, 千田重男: 塩基性フェノールアルキルエーテル類の合成 (X) (薬誌 **70**, 561 (1950)).
- 9) Synthesis of Basic Phenol Alkyl Ethers (英文) : 高橋西蔵, 千田重男 (京大医学紀要 **37**, 34 (1949)).

III 局所麻酔剤の研究

- 1) 千田重男: 含窒素環化合物の合成 (65) ヒノリン類のジエチルアミノアセチルアミノ誘導体について (薬誌 **72**, 296 (1952)).
- 2) 高橋西蔵, 千田重男: 含窒素環化合物の合成 (第74報) ヒノリン類のジエチルアミノアセチルアミノ誘導体について (薬誌 **72**, 1109 (1952)).
- 3) 高橋西蔵, 千田重男: 含窒素環化合物の合成 (第75報) ヒノリン-3-カルボン酸誘導体について (薬誌 **72**, 1112 (1952)).
- 4) 千田重男, 和泉 弘: 局所麻酔剤の研究 (第1報) テトラリン誘導体の合成 (薬誌, **81**, 964 (1961)).
- 5) 千田重男, 和泉 弘, 栗田芳明: 局所麻酔剤の研究 (第2報) パラアミノ安息香酸誘導体の合成 (薬誌 **82**, 783 (1962)).
- 6) Shigeo Senda, Hiroshi Izumi, Yoshiaki Kurita: Potential Antispasmodic Agents derived from β -Aminoacylaminobenzoic Acid (Pharmaceutica Acta Helveticae **38**, 470 (1963)).

IV 抗ヒスタミン剤の研究

- 1) 千田重男: ピリベンザミン系抗ヒスタミン剤について(1) (薬誌 **71**, 601 (1951)).

V 鎮痛, 鎮痙剤の研究

- 1) 高橋西蔵, 千田重男: 含窒素環化合物の合成 (第73報) アンチピリン及び α -フェネチジンのジアルキルアミノアチルアミノ誘導体について (薬誌 **72**, 614 (1952)).
- 2) 荻生規矩夫, 藤村 一, 松村之始, 上島孝治, 高橋西蔵, 千田重男: ジアルキルアミノアチルアミノ誘導体の鎮痛作用 (第1報) (薬誌 **73**, 437 (1953)).

VI 感光色素類の研究

- 1) 高橋西蔵, 千田重男, 禅野久直: 含窒素環化合物の合成 (第42報) ホルムアミジン類について (薬誌 **69**, 104 (1949)).
- 2) 高橋西蔵, 千田重男, 禅野久直: 含窒素環化合物の合成 (第45報) 2-アミノビニルキノリン第四級塩について (薬誌 **69**, 144 (1949)).
- 3) 高橋西蔵, 千田重男, 禅野久直: 含窒素環化合物の合成 (第47報) 2-アミノビニルピリジン第四級塩について (薬誌 **69**, 233 (1949)).
- 4) 高橋西蔵, 千田重男, 柳原 博: 含窒素環化合物の合成 (第48報) 2-アミノビニル-4-メチルチアゾール

第四級塩について（薬誌 69, 235 (1949)).

VII その他の研究

- 1) 高橋酉蔵, 千田重男, 八塚卓三: 含硫酸ピリジン誘導体について（第14報）S.N-Aethyl-(2-mercapto-3-amino)-6-chloropyridine 及び 2-Chlor-6-methyl-1,5-naphthyridin の合成（薬誌 65, 530 (1945)).
- 2) 高橋酉蔵, 千田重雄, 八塚卓三: 含硫黄ピリジン誘導体について（第17報）ピリドチアゾール類及びピリミダゾール類の合成（薬誌 66, 62 (1946)).
- 3) 高橋酉蔵, 千田重男: 含硫黄ピリジン誘導体について（第18報）クロルアゾピリジン類の合成（薬誌 66, 64 (1946)).
- 4) 宮道悦男, 千田重男: Ethylenediamine Tetra-acetic Acid-2Na-Ca 錨塩の合成について（岐阜薬大紀要 4, 30 (1954)).
- 5) 千田重男, 兼松 順, 本多 真: ジフェニルアセトンの合成（岐阜薬大紀要 5, 20 (1955)).
- 6) 杉浦 衛, 築瀬卓也, 山口雄一郎, 千田重男: タラノキの薬効成分に関する研究（第一報）皮部水性エキスの制糖作用について（岐阜薬大紀要 13, 35 (1963)).

総 説

- 1) 千田重男: 最近の鎮痛剤及び鎮痙剤の動向について（岐阜薬大紀要 3, 1 (1953)).
- 2) 宮道悦男, 千田重男: 最近の抗凝固剤について（岐阜薬大紀要 4, 1 (1954)).

著 書

木本正七郎, 千田重男, 堀 幹夫, 高尾楳夫: 最新有機薬品化学（広川書店) (1960).

鍛冶 健 司

I Grignard 反応

- 1) 鍛冶健司, 長島 弘: 混合アシロイン類の合成研究（第1報）芳香族アルデヒドシアントドリンに対する Grignard 試薬の反応（薬誌 76, 1247 (1956)).
- 2) 鍛冶健司, 長島 弘: 混合アシロイン類の合成研究（第2報）芳香属アルデヒドシアントドリン, イミノエステルに対する Grignard 試薬の新反応（薬誌 76, 1250 (1956)).
- 3) 鍛冶健司, 長島 弘: 混合アシロイン類の合成研究（第3報）メトオキシマンデル酸ニトリル類に対するメチル Grignard 試薬の反応（薬誌 76, 1371 (1956)).
- 4) 鍛冶健司: 混合アシロイン類の合成研究（第4報）芳香族アルデヒドシアントドリン類に対する Methylmagnesium iodide の反応に及ぼす芳香環の構造の影響（薬誌 77, 851 (1957)).
- 5) 鍛冶健司: 混合アシロイン類の合成研究（第5報）マンデル酸関連化合物に対する Methylmagnesium-iodide の反応（薬誌 77, 855 (1957)).
- 6) 鍛冶健司: 混合アシロイン類の合成研究（第6報）脂環ケトンシアントドリン類に対する Grignard 試薬の反応（薬誌 77, 858 (1957)).
- 7) 鍛冶健司: 混合アシロイン類の合成研究（学位論文) (1957).

II 窒素異項環化合物

- 1) 鍛治健司, 長島 弘: インドール系アミン誘導体の合成研究 (薬誌 **72**, 1589 (1952)).
- 2) 鍛治健司, 長島 弘, 二ノ井 囊, 花田俊彦: チアツォール誘導体の合成研究 (薬誌 **75**, 438 (1955)).
- 3) R. N. Castle and Kenji Kaji: "Nucleophilic Displacement of Halogen in Poridazines with Phosphorus Pentasulfide." (Tetrahedron Letters, 393~396 (1962)).

総 説

鍛治健司: 輓近の Grignard 反応研究 (岐阜薬大紀要 **7**, 1 (1957)).

吉 田 甚 吉

I 薬業経済, 薬業経営に関する研究

- 1) 吉田甚吉: 我が国医薬品工業の特殊性について (経営学論集 **24**, 247 (1952)).
- 2) 吉田甚吉: 医薬品の流通と医薬品商業経営について (経営学論集 **26**, 359 (1954)).
- 3) 吉田甚吉: 薬業経済論の構想 (岐阜薬大紀要 **4**, 125 (1954)).
- 4) 吉田甚吉, 宮田英雄, 信田 力: 岐阜市における薬局の実態調査—主として薬局の位置と経営との関連において (岐阜薬大紀要 **4**, 116 (1954)).
- 5) 吉田甚吉: 配置家庭薬の現況について (岐阜薬大紀要 **5**, 35 (1955)).
- 6) 吉田甚吉: 価格維持と薬業 (岐阜薬大紀要 **7**, 32 (1957)).
- 7) 吉田甚吉: 医薬品の新製品開発について (名城商学 **9** (2), 79 (1959)).
- 8) 吉田甚吉: 医師向け医薬品の販売促進について (岐阜薬大紀要 **9**, 1 (1959)).
- 9) 吉田甚吉: 日本薬業史略 (岐阜薬大紀要 **10**, 1 (1960)).

II その他の研究

- 1) 吉田甚吉: 卸売の研究 (神戸商業大学図書館 (1940)).
- 2) 吉田甚吉: 満洲におけるパルプ工業について (神戸商業大学附属商業研究所編, 海外旅行調査報告 (1940)).
- 3) 吉田甚吉: Wright & Christian著: "Public Relations in Management" の紹介批判 (名城商学 **1** (3), 107 (1951)).
- 4) 吉田甚吉: アメリカにおける労使協力について (名城商学 **3** (1), 41 (1954)).
- 5) 吉田甚吉: 販売信用の統制について (愛知学院大学国松教授紀念論文集 161 (1957)).
- 6) 吉田甚吉: 小売マージンについて (薬局の領域 **9** (7), 51 (1960)).

著 書

吉田甚吉: 薬業経営論 (評論社) (1962).

廣瀬一雄

I 抗菌性物質に関する研究

- 1) 赤木満洲雄, 広瀬一雄, 渡辺周一, 小瀬洋喜: キノン系化合物の抗菌性作用機序に関する研究(第1報) キノン系化合物の化学構造と抗菌性(その1) アリルベンゾキノン類の化学構造と抗菌性(岐阜薬大紀要 4, 35 (1954)).
- 2) 赤木満洲雄, 広瀬一雄, 小瀬洋喜, 天野純二: キノン系化合物の抗菌性作用機序に関する研究(第2報) キノン系化合物の抗菌性に対する諸種化合物の影響(その1) キノン系化合物の抗菌性に対する表面活性剤の影響(岐阜薬大紀要 4, 41 (1954)).
- 3) 広瀬一雄, 北村二郎, 小瀬洋喜, 三島としえ: キノン系化合物の抗菌性作用機序に関する研究(第5報) ベンゾキノン機能誘導体の化学構造と抗菌性(岐阜薬大紀要 5, 24 (1955)).
- 4) 広瀬一雄, 小瀬洋喜, 北村二郎, 山中好子: 有機化合物の生化学的還元(第1報) 食用色素の変色細菌に関する研究(岐阜薬大紀要, 5, 26 (1955)).
- 5) 広瀬一雄, 小瀬洋喜, 北村二郎: 抗酸化剤の抗菌作用について(岐阜薬大紀要 6, 66 (1956)).
- 6) 広瀬一雄, 小瀬洋喜, 北村二郎: 植物ホルモンの抗菌作用について(岐阜薬大紀要 7, 64 (1957)).
- 7) 広瀬一雄, 小瀬洋喜: キノン系化合物の抗菌性作用機序に関する研究(第6報) 酸素に対するキノンの影響(その1) 脱水素酵素に対する影響(岐阜薬大紀要 8, 46 (1958)).

II 有機合成に関する研究

- 1) 赤木満洲雄, 広瀬一雄: アリル・ヒノン類の研究(第1報) N-Nitroso-acetyl-arylamin に依るヒノンのアリル化に就て(薬誌 62, 191 (1942)).
- 2) 広瀬一雄, 北村二郎, 青木威樹: チオールサリチル酸アリルエスチルの合成(岐阜薬大紀要 4, 111 (1954)).
- 3) 広瀬一雄: Monoxybenzochinon 類の合成とその抗菌性について(第1報) Monoxyalkylbenzochinon の合成(岐阜薬大紀要 11, 65 (1961)).
- 4) 広瀬一雄: Monoxybenzochinon 類の合成とその抗菌性について(第2報) 2-Oxy-5-arylbenzochinon 類の合成(岐阜薬大紀要 11, 73 (1961)).
- 5) 広瀬一雄: Monoxybenzochinon 類の合成とその抗菌性について(第3報) Monoxychinon 類の抗菌性について(岐阜薬大紀要 11, 78 (1961)).

III 分析, 試験法等に関する研究

- 1) 小瀬洋喜, 池田 坦, 広瀬一雄: 濾紙電気泳動法の衛生化学への応用研究(第1報) 氷冷式濾紙電気泳動装置について(岐阜薬大紀要 8, 57 (1958)).
- 2) 小瀬洋喜, 池田 坦, 広瀬一雄: 濾紙電気泳動法の衛生化学への応用研究(第2報) Sr, Ba, Zr の分離について(岐阜薬大紀要 8, 60 (1958)),
- 3) 小瀬洋喜, 池田 坦, 広瀬一雄: 活性汚泥中の放射能について(岐阜薬大紀要 8, 55 (1958)).

著書

- 廣瀬一雄: (分担執筆) 卫生化学(広川書店) (1960)
 広瀬一雄: (分担執筆) 卫生化学および試験法(広川書店) (1963)

奥田高千代

I Mannich 反応の研究

- 1) 奥田高千代: アルキル化剤としての Mannich 塩基に関する研究(第1報) パラ置換 β -Dimethylamino-propiophenone と Morpholine との交換反応(薬誌 76, 1~3 (1956)).
- 2) 奥田高千代: 同上(第2報) パラ置換 β -Dimethylaminopropiophenone と Piperidine との交換反応(薬誌 76, 4—6 (1956)).
- 3) 奥田高千代, 小川昌三: 同上(第3報) 2-Acetamidothiazole 類の Mannich 反応(薬誌 77, 445-447 (1957)).
- 4) 奥田高千代, 黒宮喜美子: 同上(第4報) 2-Acetamidothiazole 類の Mannich 塩基によるアルキル化反応(薬誌 77, 448—451 (1957)).
- 5) 奥田高千代, 松本潮: 同上(第5報) Acetyl- α -naphthol 類の Mannich 塩基の合成(薬誌 79, 1140—1145 (1959)).
- 6) 奥田高千代: 同上(第6報) テオフィリン並びにベンズイミダゾールの Mannich 反応(薬誌 80, 205—207 (1960)).
- 7) 奥田高千代: 同上(第7報) テオフィリン並びにベンズイミダゾールの Mannich 塩基とインドールとの交換アミノメチル化反応(薬誌 80, 208—210 (1960)).

II 抗菌性作用ならびに代謝拮抗に関する研究

- 1) 奥田高千代, 北村二郎, 味香喜代子: p -Aminothiobenzamide 誘導体の抗菌性(第1報)(岐阜薬大紀要 5, 29 (1955)).
- 2) 北村二郎, 奥田高千代: 同上(第2報) Resting Cell の呼吸に対する影響(岐阜薬大紀要 5, 33 (1955)).
- 3) 北村二郎, 奥田高千代, 松本 繁: β -(Amino-5-thiazolyl)-alanine および β -(2-amino-4-methyl-5-thiazol)-alanine の微生物活性(岐阜薬大紀要 12, 46 (1962)).

III その他の研究

- 1) 中沢浩一, 奥田高千代: 医薬品の分子化合物に関する研究(第1報) フェノスルファゾール系化合物の分子化合物(岐阜薬大紀要 4, 94 (1954)).
- 2) 高取吉太郎, 奥田高千代, 原 茂: p -Hydroxybenzene sulfonamide 誘導体合成研究(第1報)(薬誌 71, 1371 (1951)).
- 3) 高取吉太郎, 山田保雄, 高木 太, 奥田高千代: ズルフオンアミド剤合成研究(薬誌 72, 426 (1952)).
- 4) 奥田高千代: フロキサン類の合成研究(第1報)(薬誌 78, 808 (1958)).

著書

- 奥田高千代: (分担執筆) 最新無機化学(広川書店) (1960).
 奥田高千代: (分担執筆) 無機化学実験書(広川書店) (1960).
 奥田高千代: (分担執筆) 最新物理化学(広川書店) (1962).

佐久間礼三郎

I 公衆衛生関係の研究

- 1) 佐久間礼三郎, 戸田恭子, 小野寿郎, 加藤良彦: 屋内における空気の汚染度について (衛生化学 4, 122 (1957)).

II 食品衛生関係の研究

- 1) 佐久間礼三郎: 放射性物質含有鉱物の食品に対する作用について (第1報) (岐阜薬大紀要 7, 63 (1957)).

III ビタミン関係の研究

- 1) 佐久間礼三郎: 各種薬物投与時における動物臓器ビタミン B₂量の変動について (ビタミン 21, 287 (1960)).
- 2) 佐久間礼三郎: 筋肉のビタミン B₂量について (ビタミン 21, 287 (1960)),
- 3) 佐久間礼三郎: ゴキブリのビタミン B₂と螢光物質に関する研究 (ビタミン 21, 297 (1960)).
- 4) 佐久間礼三郎: 植物組織におけるビタミン B₂の生成におよぼす炭素源および窒素源の影響について (ビタミン 21, 299 (1960)).
- 5) 佐久間礼三郎: 種子発芽におけるビタミン B₂の生成におよぼす無機塩類の影響 (ビタミン 21, 301 (1960)).

総 説

- 1) 佐久間礼三郎: 窒業珪肺の実態について (岐阜薬大紀要 6, 17 (1956)).
- 2) 佐久間礼三郎, 石黒伊三雄: FAD の分離法とその生理作用について (岐阜薬大紀要 10, 40 (1960)).

著 書

無機化学研究会同人: (分担執筆) 最新無機化学 (広川書店) (1960).

化学実験研究会: (分担執筆) 化学実験操作書 (広川書店) (1960).

林 領一

I 運動生理学に関する研究

- 1) 林 領一, 木沢顕正: 本学学生の体格と脈搏の関係について (岐阜薬大紀要 4, (1953)).
- 2) 林 領一, 木沢顕正: 本学学生の体格と脈搏の関係について (体育学研究 1 (1), 186 (1954)).
- 3) 林 領一, 中神 勝: 閉眼時と閉眼時との筋力の比較 (体育学研究 6 (1), 125 (1960)).

II 環境衛生に関する研究

- 1) 西脇澄, 森下正三, 生田晃三, 小瀬洋喜, 林 領一, 池田 担: 学校環境衛生の基礎的研究 (第6報) 注入式消毒装置によるプール消毒法について (衛生化学 7 (1), 32 (1959)).

- 2) 西脇 澄, 森下正三, 生田晃三, 小瀬洋喜, 林 領一, 池田 担, 日野信男, 清水英一: 学校環境衛生の基礎的研究(第7報)拡散式消毒装置によるプール消毒法について(衛生化学 7 (1), 33 (1959)).
- 3) 林 領一, 西脇 澄, 小瀬洋喜, 森下正三: プールの衛生管理に関する研究(第3報), さらし粉上澄液の濾取法について(体育学研究 7 (1), 124 (1960)).

III 特殊体育に関する研究

- 1) 林 領一, 中神 勝, 永田捷一: いわゆる虚弱児童生徒の実態とその保健指導に関する衛生学的研究(I)(体育学研究 7 (1), 264 (1961)).

IV 指導に関する研究

- 1) 林 領一, 中神 勝, 小瀬洋喜: 大学生の体位向上に関する体育学的衛生学的研究(I)(学校保健研究 4 (1), 39 (1961)).

河 辺 実

著 書

Deutsche Grammatik (文洋堂) (1955).

Deutsche Grammatik für Chemiker (文洋堂) (1957).

Abriss der deutschen Grammatik für Chemiker (文洋堂) (1959).

沢 登 定 教

- 1) 沢登定教: 法社会学について(岐阜薬大紀要 2, (1952)).
- 2) 沢登定教: 法社会学の一面(岐阜薬大紀要 4, (1954)).
- 3) 沢登定教: 法社会学の一面(社会学評論 (1955)).
- 4) 沢登定教: 刑事訴訟における「挙証責任」の転換について(岐阜薬大紀要 11, (1961)).

著 書

沢登定教: (分担執筆) 社会学辞典 (ギュルヴィツチ) (1958).

石 黒 伊 三 雄

I ビタミンB₂およびその関連化合物に関する生化学的研究

- 1) 八木国夫, 石黒伊三雄: クロマトパイルによるビタミン B₂ 各型の分離について(ビタミン 3 (1), 29 (1950)).
- 2) 八木国夫, 石黒伊三雄: ペーパークロマトグラフィーを利用する動物臓器 B₂ の分画定量法(生化学 22, 163 (1950)).
- 3) 八木国夫, 石黒伊三雄: 動物組織ビタミン B₂ の浸出法について(医学と生物学 17 (2), 105 (1950)).
- 4) 堀田一雄, 石黒伊三雄: ビタミン B₂ の分解に関する研究(I) アンモニア分解について(ビタミン

- 8 (5), 383 (1955)).
- 5) 堀田一雄, 石黒伊三雄, 田中喜平治, 木下収: リボフラビンの定量に関する検討, (I) 人尿中リボフラビン量測定時の盲螢光物質の本態について (ビタミン 8 (6), 452 (1955)).
 - 6) 堀田一雄, 石黒伊三雄: 各種動物糞便によるビタミン B₂ の分解 (ビタミン 9 (2), 146 (1955)).
 - 7) 堀田一雄, 石黒伊三雄: シロネズミ糞のビタミン B₂ 分解力におよぼす飼料の影響 (ビタミン 9 (4), 335 (1955)).
 - 8) 堀田一雄, 石黒伊三雄: Studies on the Decomposition of Riboflavin (1) Decomposition of Riboflavin by Ammonia (NAGOYA J. Med. Sci. 18 (5—6), 216 (1956)).
 - 9) 石黒伊三雄: Studies on Riboflavin-like Fluorescene Substances in Human Urine (J. Vitaminology 2 (4), 264 (1956)).
 - 10) 堀田一雄, 杉浦 衛, 勝沼信彦, 石黒伊三雄, 小島克己, 菅田敏行, 池上芳男: P³²FMN および P³²FAD の簡易調製法とその利用について (ビタミン 14 (5), 578 (1958)).
 - 11) 堀田一雄, 石黒伊三雄, 友田正勝, 今泉 悅: ビタミン B₂ およびその関連物質の分離に関する研究 (I) (ビタミン 14 (6), 760 (1958)).
 - 12) 堀田一雄, 石黒伊三雄, 友田正勝, 今泉 悅: ビタミン B₂ およびその関連物質の分離に関する研究 (II) (ビタミン 15 (2), 82 (1958)).
 - 13) 堀田一雄, 石黒伊三雄, 田中喜平治, 安藤 収: ビタミン B₂ より誘導されるキノキザリン化合物に関する栄養的意義 (ビタミン 15 (2), 85 (1958)).
 - 14) 堀田一雄, 石黒伊三雄, 田中喜平治, 安藤 収, 今泉 悅: The Effects of Quinoxaline Compounds on Riboflavin Efficacy in Rats (NAGOYA J. Med. Sci. 21, 46 (1958)).
 - 15) 堀田一雄, 杉浦 衛, 勝沼信彦, 石黒伊三雄, 小島克己, 菅田敏行, 池上芳男: A Simplified Preparation Method of P³²-Labeled Flavin Mononucleotide and Flavinadenine Dinucleotide and their Application to Biochemical Researches. (J. Vitaminology 5, 210 (1959)).
 - 16) 堀田一雄, 石黒伊三雄, 田中きみ, 内藤純子: 乳汁のビタミン B₂ 3型分布比とフオスファターゼについて (ビタミン 21, 204 (1960)).
 - 17) 石黒伊三雄: Flavine adenine Dinucleotide の分離法とその生理作用について (岐阜薬大紀要 10, 40 (1960)).
 - 18) 石黒伊三雄: ビタミン B₂ 3型の分離における Crammer 法の検討 (ビタミン 22, 271 (1961)).
 - 19) 石黒伊三雄, 高木克育, 内藤純子: 正常人の尿中に発現する螢光物質について (岐阜薬大紀要 9, 61 (1959)).

II トリプトファン代謝に関する研究

- 1) 堀田一雄, 友田正勝, 石黒伊三雄, 田中照男, 横山幸子, 岸川基明, 寺島又二: 正常ウサギ尿中トリプトファン系代謝産物におよぼす食餌の影響について (生化学 29 (12), 932 (1958)).
- 2) 堀田一雄, 友田正勝, 石黒伊三雄, 田中照男, 横山幸子, 岸川基明, 寺島又二: 2, 3 ビタミン投与によるウサギ尿中トリプトファン代謝産物排泄量の変動について (生化学 29 (12), 937 (1958)).
- 2) 堀田一雄, 石黒伊三雄, 内藤純子: ビタミン B₂ 欠乏シロネズミのトリプトファン代謝に関する研究

(ビタミン23, 31 (1961)).

- 4) 堀田一雄, 石黒伊三雄, 内藤純子, 葛谷博磁: シロネズミ毛髪のキヌレニンに関する研究(I) 低タンパク食およびトリプトファン欠乏食投与時の影響について (生化学 32 (1), 28 (1960)).
- 5) 堀田一雄, 石黒伊三雄, 内藤純子, 葛谷博磁: 同上(II) 毛髪キヌレニンとトリプトファン代謝との関係について (生化学 32 (6), 423 (1960)).
- 6) 堀田一雄, 石黒伊三雄, 内藤純子: シロネズミ毛髪のキヌレニンに関する研究(III) 毛髪キヌレニンとトリプトファン代謝に預る酸素活性の関係について (生化学 33, 713 (1961)).
- 7) 堀田一雄, 石黒伊三雄, 内藤純子: シロネズミ毛髪のキヌレニンに関する研究(IV) トリプトファンピロラーゼの誘導作用と毛髪キヌレニン量について (生化学 33, 716 (1961)).

III 精神病領域における生化学的研究

- 1) 岸本鎌一, 石黒伊三雄, 広瀬信夫, 溝口正美, 坂井田幸雄, 外川嘉子, 滝沢宏夫: The Biochemical Genetics of Schizophrenia Report 1 (NAGOYA J. Med. Sci 16 (3), 191 (1953)).
- 2) 石黒伊三雄, 坂井田幸雄: 精神分裂病における人尿中のキサンチンの定量 (環境医学研究所年報VI, 109 (1954)).

IV 黒血症についての研究

- 1) 石黒伊三雄, 田村 彰, 高橋又郎, 石井温義, 明石精一, 富永敏昭: 遺伝性黒血症(田村, 高橋病)について (血液と輸血 1 (5), 404 (1954)).

V ビタミン B₁に関する研究

- 1) 堀田一雄, 石黒伊三雄, 杉浦 衛, 今泉 悅: Effects of TAD and TPD on Succinic Acid Dehydrogenase (NAGOYA J. Med. Sci. 21, 49 (1958))

VI 腫瘍に関する研究

- 1) 藤田啓介, 石黒伊三雄, 岩瀬正次, 松原敏夫, 松井 博, 水野哲彦: The Biochemical Interaction of Trypan Blue and p-Amino azobenzene in the Liver of Rat(I) (GANN 47 (6), 181 (1956)).
- 2) 高取吉太郎, 石黒伊三雄, 社本みと子, 内藤純子: DAB 投与ラットの肝臓内銅量の変動について (岐阜薬大紀要 11, 39 (1961)).

VII 王乳の生化学的研究

- 1) 石黒伊三雄・内藤純子・田中きよ子: 王乳に関する栄養学的研究(第1報) 王乳中のビタミン B₁, B₂ の態度について (栄養と食糧, 16, 127 (1963)).
- 2) 石黒伊三雄・内藤純子・田中きよ子: 王乳に関する栄養学的研究(第2報) 王乳中の磷酸化合物の分布と Phosphatase Activity について (栄養と食糧, 16, 130 (1963)).
- 3) 石黒伊三雄・高取吉太郎・内藤純子・原田治良: 王乳(ローヤルゼリー)の栄養学的研究(第3報) 王乳に含まれる螢光物質とキヌレニンの含有量について (岐阜薬科大学紀要, 13, 1 (1963)).

- 4) 石黒伊三雄・内藤純子・原田治良: 同上(第4報) 王乳中の含窒素化合物と蛋白質の電気泳動的観察について(岐阜薬科大学紀要, **13**, 6 (1963)).
- 5) 石黒伊三雄・内藤純子・原田治良: 同上(第5報) 王乳投与ラッテの生育に及ぼす影響について(岐阜薬科大学紀要 **13**, 8 (1963)).
- 6) 石黒伊三雄・内藤純子・岡田好弘: 同上(第6報) 王乳中に含まれるパロチン様物質の研究(岐阜薬科大学紀要, **13**, 12 (1963)).
- 7) 石黒伊三雄・内藤純子・篠原力雄・渡辺政良: 同上(第7報) 王乳の内分泌系に及ぼす影響について(岐阜薬科大学紀要, **13**, 16 (1963)).

VII. 花粉の生化学的研究

- 1) 石黒伊三雄・内藤純子・青木尚恵: 化粉に関する栄養学的研究(第1報) 花粉投与によるラッテの生育に及ぼす影響について(岐阜薬科大学紀要, **13**, 20 (1963)).

総 説

- 1) 石黒伊三雄: アイソトープの利用について(岐阜薬科大学紀要 **7**, 21 (1957)).
- 2) 佐久間礼三郎, 石黒伊三雄: Flavin Adenine Dinucleotide の分離法とその生理作用について(岐阜薬科大学紀要 **10**, 40 (1960)).

堀 幹 夫

I アミノアセトニトリル誘導体の合成研究

高橋酉蔵, 堀 幹夫: 除痛剤の合成(第1報) α -アミノフェニルアセトニトリルの α -ジアルキルアミノアチル及び β -ジエチルアミノエチル誘導体の合成(薬誌, **73**, 446 (1953)).

II. アミノチクロヘキサン誘導体の合成研究

- 1) 高橋酉蔵, 堀 幹夫: 除痛剤の合成(第2報) アミノチクロヘキサン誘導体の合成(その1)(薬誌, **74**, 52 (1954)).
- 2) 高橋酉蔵, 堀 幹夫: 除痛剤の合成(第3報) アミノチクロヘキサン誘導体の合成(その2)(薬誌, **74**, 354 (1954)).
- 3) 高橋酉蔵, 堀 幹夫: 除痛剤の合成(第4報) アミノチクロヘキサンの誘導体の合成(その3)(薬誌, **74**, 1141 (1954)).
- 4) 高橋酉蔵, 堀 幹夫, 鶴羽 肇: 除痛剤の合成(第7報) アミノチクロヘキサンの誘導体の合成(その4)(薬誌, **75**, 1380 (1955)).
- 5) 高橋酉蔵, 堀 幹夫, 鶴羽 肇: 除痛剤の合成(第9報) アミノチクロヘキサンの誘導体の合成(その5)(薬誌, **76**, 56 (1956)).
- 6) 高橋酉蔵, 堀 幹夫, 岡村研太郎: 除痛剤の合成(第12報) アミノチクロヘキサンの誘導体の合成(その6)(薬誌, **78**, 1 (1958)).
- 7) 高橋酉蔵, 堀 幹夫, 浜島好男: 除痛剤の合成(第13報) アミノチクロヘキサンの誘導体の合成(その7)(薬誌, **78**, 6 (1958)).
- 8) 堀 幹夫: 除痛剤の合成(第14報) アミノチクロヘキサンの誘導体の合成(その8)(薬誌, **78**, 11

(1958)).

- 9) 堀 幹夫: 除痛剤の合成(第15報) アミノチクロヘキサン誘導体の合成(その9) (薬誌, 78, 15 (1958)).
- 10) 堀 幹夫: 除痛剤の合成(第16報) アミノチクロヘキサン誘導体の合成(薬誌, 78, 18 (1958)).
- 11) Torizo Takahashi, Mikio Hori and Akio Kambara: Syntheses of Analgesics(X XV) Aminocyclohexane Derivatives(X I) (Chem. Pharm. Bull., 7, 917 (1959)).

III. アミノチクロペンタン誘導体の合成研究

高橋西藏, 堀 幹夫, 加藤 旭: 除痛剤の合成(第5報) アミノチクロペンタン誘導体の合成(薬誌, 75, 714 (1955)).

IV. カンファン誘導体の合成研究

- 1) 高橋西藏, 堀 幹夫, 鈴木安司: 除痛剤の合成(第6報) カンファン誘導体の合成(その1) (薬誌, 75, 1377 (1955)).
- 2) 高橋西藏, 堀 幹夫, 浜島好男: 除痛剤の合成(第20報) カンファン誘導体の合成(その2) (薬誌, 79, 162 (1959)).

V. アンチピリン誘導体の合成研究

- 1) 高橋西藏, 岡田寿太郎, 堀 幹夫: 除痛剤の合成(第8報) アンチピリン誘導体の合成(その1) (薬誌, 75, 1431 (1955)).
- 2) 高橋西藏, 堀 幹夫, 兼松 顯: 除痛剤の合成(第10報) アンチピリン誘導体の合成(その2) (薬誌, 76, 568 (1956)).
- 3) 高橋西藏, 岡田寿太郎, 堀 幹夫, 加藤 旭, 兼松 顯, 山本泰男: 除痛剤の合成(第11報) アンチピリン誘導体の合成(その3) (薬誌, 76, 1180 (1956)).

VI. 塩基性フェニルアルキルエーテル類の合成研究

- 1) 高橋西藏, 千田重男, 松井敏三, 堀 幹夫: 塩基性フェニルアルキルエーテル類の合成(第6報) (薬誌, 69, 211 (1949)).
- 2) 高橋西藏, 千田重男, 松井敏三, 堀 幹夫: 塩基性フェニルアルキルエーテル類の合成(第7報) (薬誌, 69, 278 (1949)).
- 3) 高橋西藏, 堀 幹夫, 浜島好男: 塩基性フェニルアルキルエーテル類の合成(第12報) (薬誌, 78, 907 (1958)).

VII. ジヒドロフェナントレン類の合成研究

堀 幹夫, 阿部 恭, 山川 豊, 藤村 一: *dl*-9-ジメチルアミノ-9, 10-ジヒドロフェナントレンの合成(岐阜薬科大学紀要, 8, 65 (1958)).

VII イオウを含む芳香族性に関する研究

Charles C. Price, Mikio Hori, Thyagaraja Parasaran and Malcolm Polk: Thiabenzenes IV. 1-and 2-Thianaphthalenes and 10-Thiaanthracenes. Evidence for Cyclic Conjugation (J. Am. Chem. Soc., **85**, 2278 (1963)).

総 説

堀 幹夫: チアベンゼン——新環状共役系——について (岐阜薬大紀要**13**, 1 (1963)).

著 書

堀 幹夫 (分担執筆) : 最新化学実験操作法 (広川書店) (1959)

堀 幹夫 (分担執筆) : 最新有機薬品化学 (広川書店) (1960)

松 浦 信

I ジヒドロレゾルシン類の合成研究

- 1) 中沢浩一, 松浦 信: レゾルシンを母体とする薬剤の合成に関する研究 (第6報) ジヒドロレゾルシンの原料としての γ -アセチル酪酸エステルの合成法について (薬誌 **71**, 178 (1951)).
- 2) 中沢浩一, 松浦 信: レゾルシンを母体とする薬剤の合成に関する研究 (第7報) γ -ブチリル酪酸エステルの新合成法 (薬誌 **71**, 802 (1951)).
- 3) 中沢浩一, 松浦 信: レゾルシンを母体とする薬剤の合成に関する研究 (第8報) 閉環によるジヒドロレゾルシンおよび γ -エチルジヒドロレゾルシンの合成について (薬誌 **71**, 805 (1951)).
- 4) 中沢浩一, 松浦 信: レゾルシンを母体とする薬剤の合成に関する研究 (第9報) γ -n-ブチルデヒドロレゾルシンの合成および γ -ジヒドロレゾルシン類合成の総括 (薬誌 **72**, 51 (1952)).

II フラボノイドの合成研究

- 1) 中沢浩一, 松浦 信: フラボノイドおよび近縁化合物の核置換体の合成研究 (第1報) アカセチン-7-メチルエーテルのクロルメチル化反応 (その1) 2種のクロルメチル化合物の分離およびそれらの誘導体 (薬誌 **73**, 481 (1953)).
- 2) 中沢浩一, 松浦 信: フラボノイドおよび近縁化合物の核置換体の合成研究 (第2報) アカセチン-7-メチルエーテルのクロルメチル化反応 (その2) m. p. 218° (decomp.) のクロルメチル化合物の構造 (8-メチルアカセチン-7-メチルエーテルの合成 (薬誌 **73**, 484 (1953)).
- 3) 中沢浩一, 松浦 信: フラボノイドおよび近縁化合物の核置換体の合成研究 (第3報) アカセチン-7-メチルエーテルのクロルメチル化反応 (その3) m. p. 185° (decomp.) のクロルメチル化合物の構造 (薬誌 **73**, 751 (1953)).
- 4) 中沢浩一, 松浦 信: フラボノイドおよび近縁化合物の核置換体の合成研究 (第4報) 8-(p-ヒドロキシフェナチル)-5, 7, 4'-トリヒドロキシフラボンのメチルエーテル類の合成 (ギンクゲチン分解フラボンの化学構造について) (薬誌 **74**, 40 (1954)).
- 5) 中沢浩一, 松浦 信: フラボノイドおよび近縁化合物の核置換体の合成研究 (第5報) 8-(β -アニソイ

ルエチル)-5, 7, 4'-トリヒドロキシフラボンのメチルエーテル類の合成（ギンクゴチン分解フラボンの化学構造について）（*葉誌 75*, 68 (1955)).

- 6) 中沢浩一, 松浦 信: フラボノイドおよび近縁化合物の核置換体の合成研究（第6報）8-メチルアカセチン-5, 7-ジメチルエーテルおよび8-(β -カルボキシエチル)-5, 7, 4'-トリメトキシフラボンの新合成法（*葉誌 75*, 467 (1955)).

III 縮合剤としての磷酸の応用研究

- 1) 中沢浩一, 松浦 信: 縮合剤としてのポリ磷酸の応用に関する研究（第1報）カルボン酸によるフェノールのアシル化（フェノールの新アシル化法）（*葉誌 74*, 69 (1954)).
- 2) 中沢浩一, 松浦 信, 楠田貢典: 縮合剤としてのポリ磷酸の応用に関する研究（第2報）カルボン酸による石炭酸およびアニソールの核アシル化反応（4-ヒドロキシおよび4-メトキシアシロフェノンの合成）（*葉誌 74*, 495 (1954)).
- 3) 中沢浩一, 松浦 信, 馬場茂雄: 縮合剤としてのポリ磷酸の応用に関する研究（第3報）安息香酸およびモノヒドロキシ安息香酸によるフェノール化合物のアシル化（*葉誌 74*, 498 (1954)).
- 4) 中沢浩一, 松浦 信: 縮合剤としてのポリ磷酸の応用に関する研究（第5報）カルボン酸によるフロログルシンおよびそのメチルエーテル類の核アシル化反応（*葉誌 74*, 1254 (1954)).
- 5) 中沢浩一, 松浦 信: 濃オルト磷酸によるカルコンのフラバノン閉環（第1報）（*葉誌 75*, 469 (1955)).
- 6) 松浦 信: 濃オルト磷酸によるカルコンのフラバノン閉環（第2報）フロログルシンモノメチルエーテル系カルコン類の閉環（*葉誌 77*, 296 (1957)).
- 7) 松浦 信: 濃オルト磷酸によるカルコンのフラバノン閉環（第3報）フェノール系並びにレゾルシン系カルコン類の閉環（*葉誌 77*, 298 (1957)).
- 8) 松浦 信: 濃オルト磷酸によるカルコンのフラバノン閉環（第4報）フロログルシンベンデルエーテル系カルコン類の閉環（*葉誌 77*, 302 (1957)).

IV 天然有機化合物の合成研究

- 1) 松浦 信: 濃オルト磷酸によるカルコンのフラバノン閉環（第5報）ポンカネチンの構造について（*葉誌 77*, 328 (1957)).
- 2) 松浦 信: ポンカネチンの構造について（補遺）（*葉誌 77*, 702 (1957)).
- 3) Shin Matsuura: The Structure of Cryptostrobin and strobopinin, the Flavanones from the Heartwood of *Pinus strobus*. (Chem. Pharm. Bull. 5, 195 (1957)).
- 4) 松浦 信, 太田和彦: Polyhydroxyanthraquinone 類の合成研究（第1報）2-置換-1, 3, 6, 8-tetrahydroxyanthraquinone 類の合成（*葉誌 82*, 959 (1962)).
- 5) 松浦 信, 太田和彦: Polyhydroxyanthraquinone 類の合成研究（第2報）Rhodocladonic acid 合成の試み（その1）（*葉誌 82*, 963 (1962)).

V その他の研究

- 1) 松浦 信: 活性メチレン化合物とホルムアルデヒドとの縮合（第1報）マロンエステルとホルムアルデ

- ヒドとの縮合について(薬誌 71, 525 (1951)).
- 2) 松浦 信, 松浦 曜: 2'-Hydroxy-3'-(および 5')-acetyl-4, 4'-dimethoxychalcone の合成(薬誌 77, 330 (1957)).

小瀬洋喜

I 学校環境衛生に関する研究

- 1) 小瀬洋喜, 北村二朗, 丹羽早起, 稲見敬一, 渡辺喜儀, 林 金恵: 学校環境衛生の基礎的研究(第1報)教室空気の汚染について(その1)(衛生化学 5 (1), 20 (1957)).
- 2) 小瀬洋喜, 高木平蔵, 森 未雄, 川口十久, 森下正三: 同上(第2報) 教室空気の汚染について(その2)(衛生化学 5 (2), 103 (1957)).
- 3) 小瀬洋喜, 川口十久: 同上(第3報) 暖房教室の空気求染(衛生化学 5 (2), 106 (1957)).
- 4) 小瀬洋喜, 池田 坦, 大音晋一: 同上(第3報の2) 積雪地の暖房教室の汚染(衛生化学 8 (2), 43 (1961)).
- 5) 小瀬洋喜, 池田 坦, 丹羽早起: 同上(第4報) 老朽校舎の天井よりの塵埃落下状況について(衛生化学 6 (2), 137 (1958)).
- 6) 小瀬洋喜, 池田 坦, 森下正三, 川口十久, 若井昌司, 杉下銀郎, 中島道子: 同上(第5報) 餅食調理室の空気汚染(衛生化学 7 (1), 29 (1959)).
- 7) 西脇 澄, 森下正三, 生田晃三, 小瀬洋喜, 林 領一, 池田 坦: 同上(第6報) 注入式消毒装置によるプール消毒法について(衛生化学 7 (1), 32 (1959)).
- 8) 西脇 澄, 森下正三, 生田晃三, 小瀬洋喜, 林 領一, 池田 坦, 日野信男, 清水英一: 同上(第7報)拡散式消毒器によるプール消毒法について(衛生化学 7 (1), 33 (1959)).
- 9) 森下正三, 生田毅彦, 西脇 澄, 白井治郎, 丸井俊勝, 小瀬洋喜, 池田 坦: 同上(第8報) 大垣市のプール衛生管理と流行性角結膜炎について(衛生化学 7 (1), 35 (1959)).
- 10) 小瀬洋喜, 池田 坦, 広瀬一雄, 中尾 貢, 安藤茂己, 森下正三, 安藤金治, 丸井俊勝, 白木有之: 同上(第10報)岐阜県下の学校用水について(衛生化学 7 (2), 144 (1959)).
- 11) 小瀬洋喜, 池田 坦, 森下正三, 杉下銀郎, 大野栄一: 同上(第11報) 教室の照明度について(衛生化学 7 (2), 147 (1959)).
- 12) 小瀬洋喜: 同上(第13報)岐阜県下の学校環境衛生の実態(衛生化学 7 (2), 149 (1959)).
- 13) 小瀬洋喜, 森下正三, 生田晃三: 同上(第14報) 大垣市における学校便所の実態(衛生化学 9 (1), 53 (1963)).
- 14) 小瀬洋喜, 松居秀夫, 池田 坦, 森下正三, 小木曾源二, 松野数子: 同上(第15報) 学校内の塵埃について(衛生化学 9 (1), 56 (1963)).
- 15) 小瀬洋喜, 池田 坦, 中尾 貢, 森下正三, 春日井武司, 棚橋儀弘: 同上(第17報) 水害時の学校環境衛生の保持について(衛生化学 9 (1), 58 (1963)).
- 16) 小瀬洋喜: 学校における換気の問題点(総説)(学校保健研究 5 (11), 9 (1963)).

II 水処理に関する研究

- 1) 小瀬洋喜: プールの衛生管理に関する研究(日公衛誌 7 (1), 21 (1960)).

- 2) 西脇 澄, 小瀬洋喜, 林 領一, 森下正三: 同上(第3報)さらし粉上澄液の濾取法について(体育学研究 7 (1), 124 (1962)).
- 3) 小瀬洋喜, 池田 坦, 西脇 澄, 森下正三: 同上(第5報)プール水換水量に関する理論的考察(用水と廃水 5 (7), 24 (1963)).
- 4) 小瀬洋喜, 池田 坦: 注入曝氣式浄化槽の効果とその放流水質について(その1)(用水と廃水 5 (2), 15 (1963)).
- 5) 小瀬洋喜, 池田 坦, 広瀬一雄: 活性汚泥中の放射能について(岐阜薬大紀要 8, 55 (1958)).

III 栄養食品に関する研究

- 1) 高井富美子, 小瀬洋喜: 調理の基礎的研究(第1報)調理食品の内部温度について(その1)(岐阜女短研究紀要 6, 1 (1959)).
- 2) 高井富美子, 小瀬洋喜: 同上(第2, 3報)同上(その2)(家政学雑誌 9 (6), 284 (1959)).
- 3) 高井富美子, 森 基子, 小瀬洋喜: 調理食品へのカルシウム添加について(家政学雑誌 11 (3), 135 (1960)).
- 4) 後藤礼司, 桑山啓一, 橋本紀男, 小瀬洋喜: 学童の嗜好に関する考察(第1報)(公衆衛生年報 3 (1), 59 (1955)).
- 5) 小瀬洋喜, 北村藤四郎, 森下正三: 同上(第2報)(衛生化学 5 (2), 152 (1957)).
- 6) 小瀬洋喜, 森下正三, 北村藤四郎: 同上(第3報)大垣市における給食実態調査(衛生化学 6 (2), 110 (1958)).
- 7) 広瀬一雄, 小瀬洋喜, 北村二郎, 山中好子: 有機化合物の生化学的還元(第1報)食用色素の変色細菌に関する研究(岐阜薬大紀要 5, 26 (1955)).
- 8) 宮道悦男, 小瀬洋喜, 大竹正江: 同上(第2報)変色細菌によるタール色素の変色(岐阜薬大紀要 6, 27 (1956)).
- 9) 宮道悦男, 小瀬洋喜: 同上(第3報)変色細菌に存在する色素還元酵素(岐阜薬大紀要 6, 31 (1956)).

IV 濾紙電気泳動法に関する研究

- 1) 小瀬洋喜, 池田 坦, 広瀬一雄: 濾紙電気泳動装置の衛生化学への応用(第1報)水冷式濾紙電気泳動装置について(岐阜薬大紀要 8, 57 (1958)).
- 2) 小瀬洋喜, 池田 坦, 広瀬一雄: 同上(第2報)Sr, Ba, Zr の分類について(岐阜薬大紀要 8, 60 (1958)).
- 3) 小瀬洋喜, 池田 坦: 同上(第3報)ウロン酸類の分離について(岐阜薬大紀要 10, 68 (1960)).

V 植物ホルモンに関する研究

- 1) 小瀬洋喜: 植物ホルモンの合成研究(第1報)β-ナフトオキシ醋酸エステル類の合成及びその植物ホルモン性作用について(農化 22 (4), 104 (1948)).
- 2) 小瀬洋喜: 同上(第2報)2, 4-Dichlorophenoxyacetic acid およびその原料化合物の合成法検討(岐阜女短紀要 1, 64 (1951)).
- 3) 広瀬一雄, 小瀬洋喜, 北村二郎: 植物ホルモンの抗菌作用について(岐阜薬大紀要 7, 64 (1957)).

VI 抗菌性物質に関する研究

- 1) 広瀬一雄, 小瀬洋喜, 北村二郎: 抗酸化剤の抗菌作用について (岐阜薬大紀要 **6**, 66 (1956)).
- 2) 赤木満洲雄, 広瀬一雄, 渡辺周一, 小瀬洋喜: キノン系化合物の抗菌作用機序に関する研究 (第1報). キノン系化合物の化学構造と抗菌性 (その1). アリルベンズキノン類の化学構造と抗菌性 (岐阜薬大紀要 **4**, 35 (1954)).
- 3) 赤木満洲雄, 広瀬一雄, 小瀬洋喜, 天野純二: 同上 (第2報) キノン系化合物の抗菌性に対する諸種化合物の影響 (その1) キノン系化合物の抗菌性に対する表面活性剤の影響 (岐阜薬大紀要 **4**, 41 (1955)).
- 4) 広瀬一雄, 北村二郎, 小瀬洋喜, 三島しげえ: 同上 (第5報) キノン系化合物の化学構造と抗菌性 (その3) ベンズキノン機能誘導体の化学構造と抗菌性 (岐阜薬大紀要 **5**, 24 (1955)).
- 5) 広瀬一雄, 小瀬洋喜: 同上 (第6報) 酵素に対するキノンの影響 (その1) 脱水素酵素に対する影響 (岐阜薬大紀要 **8**, 46 (1958)).
- 6) 小瀬洋喜: 抗菌性物質としてのキノン系化合物に関する研究 (岐阜薬大紀要 **5**, 46 (1955)).
- 7) 河北俊彦, 渡辺卓也, 小瀬洋喜: 硬化病防除剤としてのキノン系化合物に関する研究 (第1報) 硬化病菌に対するキノン系化合物の抗菌試験について (岐阜県蚕糸試験場報告 **4**, 1 (1960)).

VII 動植物成分に関する研究

- 1) 小瀬洋喜, 池田 基: 蚕児硬化病菌の代謝産物に関する研究 (第2報) 赤蘿蔔培地およびその菌体中の代謝成分 (岐阜薬大紀要 **11**, 82 (1961)).
- 2) 嶋野 武, 小瀬洋喜: 黄蜀葵子の成分研究 (第1報) (岐阜薬大紀要 **3**, 15 (1953)).

VIII 薬史学に関する研究

- 1) 小瀬洋喜: 薬史学研究への民俗学的方法論の導入 (岐阜薬大紀要 **8**, 12 (1958)).

著　　書

- 小瀬洋喜: 飛驒白川村の食生活 (岐阜短期大学) (1952)
- 小瀬洋喜, 高井富美子: 調理科学 (コロナ社) (1957)
- 小瀬洋喜, 森下正三: 水泳場管理学 (東山書房) (1961)
- 小瀬洋喜等 (分担執筆): 衛生化学および試験法 (広川書店) (1963)

伊　藤　一　男

I ツヅラフジ科植物アルカロイドの研究

- 1) Masao Tomita, Yasuo Inubushi, Kazuo Ito: Studies on the Alkaloids of Menispermaceous Plants. CXIX. A Bisected Phenolic Product from the Cleavage of Tetrandrine and Isotetrandrine with Metallic Sodium in Liquid Ammonia (Chem. & Pharm. Bull. **2**, 372 (1954)).
- 2) Masao Tomita, Kazuo Ito, Hideo Yamaguchi: Studies on the Alkaloids of Menispermaceous Plants. CXXX. Synthesis of O-Methyldauricine by Ullmann Reaction (Chem. & Pharm. Bull. **3**, 449 (1955)).

II モクレン科植物アルカロイドの研究

- 1) 富田真雄, 伊藤一男: モクレン科植物アルカロイド研究(第20報) Magnolamine の構造(その5) Tetramethylmagnolamine の合成(薬誌 78, 103 (1958)).
- 2) 富田真雄, 伊藤一男: モクレン科植物アルカロイド研究(第21報) Tetramethylmagnolamine の光学的異性体の合成(薬誌 78, 605 (1958)).
- 3) 伊藤一男, 青木丈子: モクレン科植物アルカロイド研究(第22報) トウオガタマ *Michelia fuscata* Blume のアルカロイド(その1)(薬誌 79, 325 (1959)).
- 4) 伊藤一男, 内田郁子: モクレン科植物アルカロイド研究(第23報) トウオガタマ *Michelia fuscata* Blume のアルカロイド(その2)(薬誌 79, 1108 (1959)).
- 5) 伊藤一男: モクレン科植物アルカロイド研究(第24報) オガタマノキ *Michelia compressa* MAXIM. のアルカロイド(その1)(薬誌 80, 705 (1960)).
- 6) 伊藤一男: モクレン科植物アルカロイド研究(第26報) オガタマノキ *Michelia compressa* MAXIM. のアルカロイド(その2) Michepressine の構造(薬誌 81, 703 (1961)).

III 2-ニトロフェニル酢酸類の合成的研究

伊藤一男, 花井一彦, 大野亘, 大屋紀義: 2-ニトロフェニル酢酸類の合成研究. 2-Nitro-4-methoxy, および 2-Nitro-4-benzyloxyphenylacetic Acid の合成, Reissert 反応の検討(岐阜薬大紀要 12, 49 (1962)).

総 説

伊藤一男: インドール系アルカロイド Ibogaine およびその関連塩基の構造(岐阜薬大紀要 11, 9 (1961)).

著 書

伊藤一男: 宮道悦男編著「最新植物成分研究法」(分担執筆)(広川書店)(1962)

Kazuo Ito: Annual Index of the Reports on Plant Chemistry in 1959 (Chief Editor: Tatsuo Kariyone) (Hirokawa Publishing Co. Inc.) (分担執筆)(1962)

牧 敬文

I 異項環化合物の合成研究

- 1) Torizo Takahashi and Yoshifumi Maki: Synthesis of Pyrido-1, 4-thiazines (2) (Chem. Pharm. Bull., 3, 92 (1955)).
- 2) Torizo Takahashi and Yoshifumi Maki: Synthesis of 2-Mercapto-3-amino-6-chloropyridine Derivatives (Chem. Pharm. Bull., 3, 361 (1955)).
- 3) 高橋酉藏, 牧敬文: ピリド-1, 4-チアシン誘導体の合成(3)(薬誌 77, 481 (1957)).

II 転位反応の研究

- 1) 牧敬文: ピリシン誘導体におけるスマイル転位及びベンゾピリドー, シピリド-1, 4-チアシン誘導体の合成(1)(薬誌 77, 485 (1957)).
- 2) 牧敬文: 同上(2)(薬誌 77, 862 (1957)).

- 3) 高橋酉藏, 牧 敬文: 同上 (3) (薬誌 **78**, 417 (1958)).
- 4) Torizo Takahashi and Yoshifumi Maki: Smiles Rearrangement of Pyridine Derivatives and Synthesis of Benzopyrido-and Dipyrido-1, 4-thiazine Derivatives (4) (Chem. Pharm. Bull., **6**, 369 (1958)).
- 5) 牧 敬文, 岡田芳男, 小畠和永, 吉田靖子: ピリシン誘導体におけるスマイル転位 (5) (岐阜薬大紀要 **12**, 54 (1962)).
- 6) 牧 敬文, 川崎紘一, 佐藤 誠: 同上 (6) (岐阜薬大紀要 **13**, 23 (1963)).
- 7) 牧 敬文, 木津弘子, 小畠和永: ピリダゾン誘導体からピラゾロン誘導体への縮環反応 (1) (薬誌 **83**, 725 (1963)).
- 8) 牧 敬文, 小畠和永: 同上 (2) (薬誌 **83**, 819 (1963)).
- 9) Yoshifumi Maki and Kazunaga Obata: Ring-Contraction Reaction from Pyridazone Derivatives to Pyrazolone Derivatives (3) (Chem. Pharm. Bull., in press)
- 10) 牧 敬文, 川崎紘一, 佐藤 誠: 転位反応の研究 (第9報) ピリシン誘導体におけるスマイル転位 (6) (岐阜薬大紀要 **13**, (1963)).

III 医薬品の合成研究

- 1) 高橋酉藏, 牧 敬文, 兼松 順: アンチピリン誘導体について (薬誌 **79**, 168 (1959)).
- 2) 牧 敬文, 沼田 敦: 5-Methyl-4, 5, 6, 7-tetrahydrothiazolo [4, 5-c] pyridine-2(IH)-one の合成 (薬誌 **83**, 903 (1963)).

IV アルカロイドの構造研究

- 1) Trorizo Takahashi, Kanichi Ueda, Katsumaro Minamoto and Yoshifumi maki: Über Taxinine (Chem. Pharm. Bull., **8**, 372 (1960)).
- 2) 上尾庄次郎, 上田寛一, 山本義公, 牧 敬文: Taxinine 及び Taxinol について (薬誌 **82**, 1081 (1962)).
- 3) 上尾庄次郎, 上田寛一, 山本義公, 牧 敬文: Taxinine 及び Taxinol の構造について (第七回天然有機化合物討論会予講集 p. 226 (1963)). (Tetrahedron Letters, in press)

総 説

牧 敬文: Lycopodium Alkaloid の化学 (岐阜薬大紀要 **11**, 1 (1961)).

豊 吉 一 美

I 有機水銀化合物に関する研究

- 1) 豊吉一美: 酢酸フェニル水銀製造条件の検討 (第1報) (岐阜薬大紀要 **6**, 67 (1956)).
- 2) 豊吉一美: 酢酸フェニル水銀製造条件の検討 (第2報) (岐阜薬大紀要 **6**, 68 (1956)).
- 3) 豊吉一美, 村上 駿: 有機水銀化合物の研究 (第1報) テオフィリン系水銀化合物について (薬誌 **81**, 1328 (1961)).
- 4) 豊吉一美: 有機水銀化合物の研究 (第2報) 7-(Phenylmercuri) theophylline の利尿作用 (薬誌 **81**, 1374 (1961)).

- 5) 豊吉一美: 有機水銀化合物の研究(第3報) p-[*(3-Acetoxymercuri-2-methoxypropyl)carbamoyl*] phenoxyacetic Acid の合成(薬誌 81, 1376 (1961)).

滝 和子

I 植物成分に関する研究

- 1) 鳴野 武, 滝 和子, 後藤慶子: 薑類成分の研究(1) カツラタケの成分について(岐阜薬大紀要 3, 43 (1953)),
- 2) 鳴野 武, 滝 和子: サポニン類の検索(植物成分の濾紙クロマトグラフィーによる検索 1, 21 (1955)).
- 3) 鳴野 武, 滝 和子, 東 光男: トリテルペノイドの研究(第1報) トリテルペンの呈色反応について(岐阜薬大紀要 5, 1 (1955)).
- 4) 鳴野 武, 滝 和子: 同上(第2報) ペーパークロマトグラフィーによるトリテルペノイドの検出について(その1)(岐阜薬大紀要 8, 24 (1958)).
- 5) 鳴野 武, 滝 和子: 同上(第3報) ペーパークロマトグラフィーによるトリテルペノイド配糖体の検出について(その1)(岐阜薬大紀要 8, 27 (1958)).
- 6) 鳴野 武, 滝 和子, 河西明夫: 同上(第7報) ペーパークロマトグラフィーによるトリテルペノイドの検出について(その2) *Ericaceae* 植物中のトリテルペノイドの分布(岐阜薬大紀要 8, 30 (1958)).
- 7) 鳴野 武, 滝 和子, 山本達郎: 同上(第8報) ペーパークロマトグラフィーによるトリテルペノイド配糖体の検出について(その2) *Ericaceae* 植物中のトリテルペノイド配糖体の分布(岐阜薬大紀要 8, 33 (1958)).

杉 浦 衛

I 薬剤の安定性に関する研究

- 1) 宮道悦男, 加藤好夫, 杉浦 衛: サリチル酸ナトリウム溶液の安定剤について(薬剤学 12, 82 (1953)),
- 2) 加藤好夫, 杉浦 衛: ベプシン含有液剤の安定性について(薬剤学 13, 92 (1954)).
- 3) 加藤好夫, 杉浦 衛: ベプシン含有液剤の安定性について(続報)(薬剤学 14, 60 (1954)).
- 4) 加藤好夫, 杉浦 衛: ビタミンCの安定性の研究(1) 微量金属の影響(岐阜薬大紀要 6, 59 (1956)).
- 5) 加藤好夫, 杉浦 衛: ビタミンCの安定性の研究(2) ビタミンCの顆粒について(岐阜薬大紀要 6, 62 (1956)).
- 6) 加藤好夫, 杉浦 衛, 山田鋪義: ビタミンCの安定性の研究(3) ビタミンC水剤の検討(岐阜薬大紀要 8, 37 (1958)).
- 7) 石黒伊三雄, 加藤好夫, 杉浦 衛: ビタミンB₂の光分解機構とその安定性に関する検討(岐阜薬大紀要 8, 49 (1958)).

II 軟膏剤に関する研究

- 1) 加藤好夫, 杉浦 衛, 神山宏子: 軟膏剤の研究(1) 浸透性の増強について(薬剤学 18, 45 (1958)).
- 2) 加藤好夫, 杉浦 衛, 坪内全治: 軟膏剤の研究(2) 経皮吸収について(岐阜薬大紀要 10, 55 (1960)).

III 抗結核剤の薬剤学的研究

- 1) 杉浦 衛, 脇田敬子: 急性イソニコチニ酸ヒドラジド中毒に対する各種薬物の影響 (1) (薬学研究 **323**, 607 (1959)).
- 2) 杉浦 衛, 脇田敬子: 急性イソニコチニ酸ヒドラジド中毒に関する研究 (2) 疾走痙攣時の脳内アンモニアの消長について (岐阜薬大紀要 **12**, 59 (1962)).
- 3) 杉浦 衛, 山本和生, 倉野紗知子: トリプトファン代謝に及ぼす PAS の影響 (1) PAS 連続投与時におけるキサンツレン酸の排泄について (岐阜薬大紀要 **9**, 66 (1960)).
- 4) 杉浦 衛, 牧田浩和, 倉野紗知子: トリプトファン代謝に及ぼす PAS の影響 (2) PAS 連続投与時におけるトリプトファン代謝産物の変動について (岐阜薬大紀要 **12**, 63 (1962)).
- 5) 杉浦 衛, 山本満江, 山田洋子, 田中英郎: 抗結核剤の薬剤学的研究 (V) トリプトファン代謝に及ぼす PAS の影響 (3) PAS 連続投与時におけるトリプトファン代謝酵素の活性について (薬剤学 **23**, 掲載予定 (1963)).

IV 酵素剤の薬剤学的研究

- 1) 宮道悦男, 杉浦 衛: 重曹がジアスターの糖化力に及ぼす影響について (薬剤学 **11**, 38 (1952)).
- 2) 杉浦 衛, 小木曾太郎: 酵素剤の薬剤学的研究 (1) 酵素製剤の制酸力と Amylase 活性 (薬剤学 **24**, 掲載予定 (1964)).
- 3) 杉浦 衛, 小木曾太郎: 酵素剤の薬剤学的研究 (2) 湿度, 温度による酵素製剤中のアミラーゼ活性 (薬剤学 **24**, 掲載予定 (1964)).
- 4) 杉浦 衛, 小木曾太郎: 酵素剤の薬剤学的研究 (3) 酵素製剤の保存状態の差異によるアミラーゼ作用の失効について (薬剤学 **24**, 掲載予定 (1964)).
- 5) 杉浦 衛, 加藤精宏, 田中英郎: 酵素剤の薬剤学的研究 (4) プルカリ性プロテアーゼについて (薬剤学 **24**, 掲載予定 (1964)).

V 融光物質に関する研究

- 1) 杉浦 衛: 血液の融光物質に関する研究 (1) ルミフラビン融光法によるビタミン B₂ 定量時の盲融光物質について (ビタミン **13**, 607 (1957)).
- 2) 杉浦 衛: 血液の融光物質に関する研究 (2) 血液中の融光物質の本態について (ビタミン **13**, 611 (1957)).
- 3) 堀田一雄, 杉浦 衛: 麦角の生産する紫色融光物質について (ビタミン **14**, 582 (1958)).
- 4) 堀田一雄, 杉浦 衛, 加藤寿美夫: 麦角より単離した紫色融光物質が大腸菌のビタミン B₂ 生成に及ぼす影響について (ビタミン **14**, 586 (1958)).
- 5) 杉浦 衛, 田中悦子, 吉田 修, 堀田一雄: 胆汁の融光物質に関する研究・胆汁の融光物質の同定 (ビタミン **20**, 181 (1960)).

VI ビタミン B 群に関する研究

- 1) 堀田一雄, 石黒伊三雄, 杉浦 衛, 勝沼信彦: P³²FMN 及び P³²FAD の簡易調製法とその利用 (ビタミン **14**, 578 (1958)).
- 2) 杉浦 衛, 吉田勝人: 亜砒酸中毒時におけるウサギ臓器ビタミン B₂ 量の変動について (ビタミン **14**,

- 558 (1958)).
- 3) 堀田一雄, 杉浦 衛: 亜砒酸中毒時におけるマウス体内ビタミン B₂ 量の消長について (ビタミン 14, 592 (1958)).
 - 4) Kazuo Hotta, Isao Ishiguro, Mamoru Sugiura and Sunao Imaizumi: Effect of TAD and TPD on Succinic Acid Dehydrogenase (Nagoya J. Med. Sci 21, 49 (1958)).
 - 5) Kazuo Hotta, Isao Ishiguro, Mamoru Sugiura, Nobuhiko Katsunuma: A Simplified Preparation method of P32-labeled Flavin Mononucleotide and Flavin Adenine Dinucleotide and their Application to Biochemical Research (J. Vitaminology 5, 210 (1959)).

VII. その他の研究

杉浦 衛, 築瀬卓也, 山口雄一郎, 千田重男: タラノ木の葉効成分に関する研究 (第1報) 皮部水性エキスの制糖作用について (岐阜薬大紀要 13, 35 (1963)).

総 説

- 1) Mamoru Sugiura: Potential pathways in Nutritional Progress (岐阜薬大紀要 12, 59 (1962)).

野村新太郎

I 植物成分の研究

- 1) 鳴野 武, 野村新太郎: イブキジヤコウソウの成分 (精油成分) (薬誌 72, 1648 (1952)).
- 2) 鳴野 武, 野村新太郎: マンサク樹皮成分について (岐阜薬大紀要 2, 2 (1952)).
- 3) 宮道悦男, 野村新太郎: くすのき科植物種子油脂の化学的研究はまびわ種子油脂の脂肪酸 (薬誌 73, 166 (1953)).
- 4) 鳴野 武, 野村新太郎, 山本正史: アゼムシロの成分研究 (岐阜薬大紀要 3, 12 (1953)).
- 5) 鳴野 武, 野村新太郎, 黒互 弘: 黄柏中よりベルベリン塩酸塩の抽出検討 (岐阜薬大紀要 4, 33 (1954)).
- 6) 秦 清之, 野村新太郎, 高野哲夫: ウドモドキ果実の成分 (木村康一, セリ科植物の生薬学的研究 (第11報)) (薬誌 80, 892 (1960)).

II. 生薬学的研究

- 1) 鳴野 武, 野村新太郎, 山川和男: 刻木通の異物について (岐阜薬大紀要 5, 4 (1955)).
- 2) 鳴野 武, 野村新太郎, 伊藤澄男: 市販瞿麦子について (岐阜薬大紀要 7, 46 (1957)).

北村二朗

I 有機合成に関する研究

- 1) 横山復次, 栗原藤三郎, 宮原顕, 北村二朗, 岩田清法: チオウレタン誘導体の合成及び駆虫性について (岐阜薬大紀要 1, 36 (1951)).
- 2) 栗原藤三郎, 北村二朗: スルファミン剤に拮抗性を有せぬ局所麻酔剤の合成 (薬誌 72, 76 (1952)).
- 3) 広瀬一雄, 北村二朗, 青木威樹: チオールサリチル酸アリルエステルの合成 (岐阜薬大紀要 4, 111 (1954)).

II 有機化合物の抗菌作用に関する研究

- 1) 広瀬一雄, 北村二朗, 小瀬洋喜, 三島としえ: キノン系化合物の抗菌性作用機序に関する研究(第5報)(岐阜薬大紀要 5, 24 (1955)).
- 2) 奥田高千代, 北村二朗, 味香喜代子: *p*-Aminothiobenzamide 誘導体の抗菌性(第1報)(岐阜薬大紀要 5, 29 (1955)).
- 3) 北村二朗, 奥田高千代: *p*-Aminothiobenzamide 誘導体の抗菌性(第2報)(岐阜薬大紀要 5, 33 (1955)).
- 4) 広瀬一雄, 小瀬洋喜, 北村二朗: 抗酸化剤の抗菌作用について(岐阜薬大紀要 6, 66 (1956)).
- 5) 広瀬一雄, 小瀬洋喜, 北村二朗: 植物ホルモンの抗菌作用について(7, 64 (1957)).
- 6) 友松滋夫, 北村二朗, 小合康長, 伴野 賢: 感光色素の抗真菌作用に関する研究(感光色素 No. 60, 30 (1960)).
- 7) 伊藤賀祐, 鹿島良哉, 黒田和郎, 伊奈波こと, 友松滋夫, 北村二朗: Experience in the Treatment of Dermatomycosis with Griseofulvin (J. of Antibiotics A. 13, 199 (1960)).

III 代謝産物に関する研究

- 1) 北村二朗, 栗本珍彦, 横山復次: 黒変米菌代謝産物について(第1報)(薬誌 76, 972 (1956)).
- 2) 北村二朗, 新井幸子, 岡田喬子: 黒変米菌代謝産物について(第2報)(岐阜薬大紀要 6, 70 (1956)).
- 3) 北村二朗, 友松滋夫: Separation of 3-Chloro-4, 6-Dimethoxysalicylic Acid from the Urine of Administered Griseofulvin (Chem. Pharm. Bull. 8, 755 (1960)).

IV 代謝拮抗に関する研究

- 1) 北村二朗, 奥田高千代, 松木繁: β -(2-Amino-5-thiazolyl)-alanine および β -(2-Amino-4-methyl-5-thiazolyl)-alanine の微生物活性(岐阜薬大紀要 12, 46 (1962)).

V 免疫化学に関する研究

- 1) 北村二朗: An Experimental Study of the Antigenicity of Crude Fraction of Trichophyton asteroides (I) (Bull. Pharm. Kes. Institute 40, 1 (1962)).
- 2) 北村二朗: An Experimental Study of the Antigenicity of Crude Fraction of Trichophyton asteroides (II) (Bull. Pharm. Res Institute 44, 1 (1963)).
- 3) 北村二朗: 白癬菌々体分画の抗原性に関する実験的研究(岐阜県立医科大学紀要 12, 261 (1961)).

長 島 弘

I Grignard 反応に関する研究

- 1) 鎌治健司, 長島弘: 混合アシロイン類の合成研究(第1報) 芳香族アルデヒドシアノヒドリンに対するアルキル Grignard 試葉の反応(薬誌 76, 1247 (1956)).
- 2) 鎌治健司, 長島弘: 同上(第2報) 芳香族アルデヒドシアノヒドリンイミノエステルに対する Grignard 試葉の新反応(薬誌 76, 1250 (1956)).
- 3) 鎌治健司, 長島弘: 同上(第3報) メトキシマンデル酸ニトリル類に対する Grignard 試葉の反応(薬誌

76, 1371 (1956)).

II 窒素異項環化合物に関する研究

- 1) 鍛治健司, 長島 弘: インドール系アミン誘導体の合成研究 (薬誌 72, 1589 (1952)).
- 2) 鍛治健司, 長島 弘: チアツオール誘導体の合成研究 (第1報) (薬誌 75, 438 (1955)).

水 野 瑞 夫

I 生 薬 学 的 研 究

- 1) 島野 武, 水野瑞夫, 鈴木富子: オウレンの生薬学的研究 (第1報) オウレンの分布と Palisade ratio について (岐阜薬大紀要 10, 51 (1960)).

II 生 薬 の 成 分 に 関 す る 研 究

- 1) 島野 武, 水野瑞夫, 尾藤 正: マメハンミョウ並びに類似昆虫のカンタリシン, 遊離アミノ酸に就て (岐阜薬大紀要 3, 44 (1933)).

III 植 物 成 分 に 関 す る 研 究

- 1) 島野 武, 水野瑞夫, 井上純男: トリテルペノイドの研究 (第4報) 濾紙微量電気泳動法によるトリテルペノイドの検討 (I) (岐阜薬大紀要 5, 7 (1955)).
- 2) 島野 武, 水野瑞夫, 井上純男: トリテルペノイドの研究 (第5報) 濾紙微量電気泳動法によるトリテルペノイドの検討 (II) (岐阜薬大紀要 6, 35 (1956)).
- 3) 島野 武, 水野瑞夫, 井上純男: トリテルペノイドの研究 (第6報) 濾紙微量電気泳動法によるトリテルペノイドの検討 (III) (岐阜薬大紀要 6, 35 (1956)).
- 4) 島野 武, 水野瑞夫, 岡本浩子, 足立郁夫: トリテルペノイドの研究 (第9報) 夏枯草の新成分について: ウルソール酸 (薬誌 76, 974 (1956)).
- 5) 島野 武, 水野瑞夫, 足立郁夫: トリテルペノイドの研究 (第10報) キソケイの成分について: ウルソール酸, オレアノール酸 (薬誌 77, 1038 (1957)).
- 6) 島野 武, 水野瑞夫, 井関鈴子: 禾本科植物のフラボノイドの研究 (予報) (岐阜薬大紀要 4, 136 (1954)).
- 7) 島野 武, 水野瑞夫: テイカカズラの成分 (予報) (岐阜薬大紀要 4, 139 (1954)).

IV 試 験 法 に 関 す る 研 究

- 1) 原田利一, 水野瑞夫, 加藤智雄: キノコ類の抗菌性について (第1報) サルノコシカケ科に属するキノコ類の抗菌力試験 (薬誌 72, 591 (1952)).
- 2) 島野 武, 水野瑞夫, 大和新一郎: 麻黄中のアルカロイドの簡易定量法について (薬誌 76, 360 (1956)).
- 3) 島野 武, 水野瑞夫: 毛管分析のバリットによる呈色 (岐阜薬大紀要 9, 31 (1959)).

V 薬 学 史

- 1) 島野 武, 水野瑞夫, 江崎秀子: 飯沼懲斎小史 (1) 飯沼懲斎遺稿による採葉地の考察 (岐阜薬大紀要 11, 29 (1961)).

VI 植物分布地理

- 1) 水野瑞夫: 濃飛(岐阜県)植物資料目録(植物趣味 **23**, 1 (1963)).
- 2) 水野瑞夫: サクライソウについて(植物趣味 **21**, 5 (1961)).
- 3) 嶋野 武, 水野瑞夫: 岐阜薬科大学臘葉目録(1)(植物分布地理研究)日本アルプスの植物目録(岐阜薬大紀要 **11**, 139 (1961)).
- 4) 嶋野 武, 水野瑞夫: 岐阜薬科大学臘葉目録(2)(植物分布地理研究)位山岐阜大学農学部附属演習林植物目録(1)(岐阜薬大紀要 **12**, 69 (1962)).
- 5) 嶋野 武, 水野瑞夫: 岐阜薬科大学臘葉目録(3)(植物分布地理研究)石徹白植物目録(1)(岐阜薬大紀要 **12**, 76 (1962)).
- 6) 水野瑞夫(分担): 大杉谷, 大台ヶ原山薬用植物資源報告書(三重県薬剤師協会 (1960)).

和 泉 弘

I 局所麻酔剤の研究

- 1) 千田重男, 和泉 弘: 局所麻酔剤の研究(第1報) テトラリン誘導体の合成(薬誌 **81**, 964 (1960)).
- 2) 千田重男, 和泉 弘: 局所麻酔剤の研究(第2報) バラアミノ安息香酸誘導体の合成(薬誌 **82**, 783 (1961)).

II ウラシル誘導体の研究

- 1) 千田重男, 和泉 弘, 栗田芳明: Potential antispasmodic agents derived from p-aminoacylaminobenzoic acid (Pharmaceutica Acta Helveticae **38**, 470 (1963)).
- 2) 千田重男, 和泉 弘, 加納三代子, 坪田順子: 6-Methyl-2, 4-dimethoxypyrimidine のニトロ化反応について(岐阜薬大紀要 **11**, 62 (1961)).

伊 藤 元

I 薬剤の可溶化に関する研究

- 1) 竹中英雄, 伊藤 元: 可溶化薬剤に関する研究(第1報) 可溶化アドレナリンについて(岐阜薬大紀要 **8**, 43 (1958)).
- 2) 竹中英雄, 伊藤 元: 可溶化薬剤に関する研究(第3報) 可溶化アスピリンについて(岐阜薬大紀要 **11**, 52 (1961)).

II ショ糖脂肪酸エステルに関する研究

- 1) 竹中英雄, 伊藤 元, 大橋 芳, 谷野孝子, 岩田博俊: ショ糖脂肪酸エステルの製剤学的応用研究(第1報) ビタミンAの安定度におよぼす影響について(岐阜薬大紀要 **12**, 33 (1962)).
- 2) 竹中英雄, 伊藤 元, 大橋 芳, 柏野正則: ショ糖脂肪酸エステルの製剤学的応用研究(第2報) ビタミンAの家兔血中濃度におよぼす影響について(岐阜薬大紀要 **12**, 37 (1962)).

III その他の研究

- 1) 竹中英雄, 伊藤 元, 松本信子: Tween系界面活性剤によるキナルカルコイドの浸出効果について(岐阜薬大紀要 11, 59 (1961)).
- 2) 竹中英雄, 伊藤 元, 中原慶子: ハチミツ中の L-アスコルビン酸の安定性について(岐阜薬大紀要 11, 56 (1961)).

浅野進吾

I 生化学に関する研究

- 1) 高取吉太郎, 石黒伊三雄, 浅野進吾, 堀 康二, 平松保造: 担癌動物の代謝に関する生化学的研究(第1報) 3-アミノ-s-トリアゾールおよび構造類似体の肝カタラーゼ阻害について(薬誌 83 (6), 648-652 (1963)).
- 2) 高取吉太郎, 石黒伊三雄, 浅野進吾, 葛谷博志, 岡本正敏, 河野隆一, 森島邦雄: 同上(第2報) DAB 投与ラット尿中アミノ酸について(薬誌 83 (10), 981-987 (1963)).
- 3) Yosoji Ito, Chiaki Moriwaki, Michio Ui, Yasuo Gomi, Katsumi Wakadayashi, Kichitaro Takatori, Yasuo Yamada, Shingo Asano: The Effect of Derivatives of IPTD on Blood Sugar and Glucagon Content of Pancreas. (Endocrinologia Japonica 7, 347-352 (1960)).
- 4) Kichitaro Takatori, Terushige Kato, Shingo Asano, Masawaka Ozaki, Toshio Nakashima: Choline in *Panax ginseng* C. A. MEYER. (Chem. Pharm. Bull. 11 (10) 1342-1342 (1963)).

II 化学療法及び薬理学に関する研究

- 1) 高取吉太郎, 山田保雄, 浅野進吾: グルフォンアミド剤合成の研究(第8報) IPTD系血糖低下グルフォンアミド剤の合成(薬誌 79 (7), 913-919 (1959)).
- 2) 高取吉太郎, 浅野進吾: 2-アミノチアゾールのロダン化(第2報)(薬誌 80 (6), 789-790 (1960)).
- 3) 高取吉太郎, 浅野進吾, 長田 康, 伊藤昭生: 同上(第3報) 化学療法剤としての 2-アミノ-5-ロダン-チアゾール誘導体について(岐阜薬大紀要 12, 27-33 (1962)).
- 4) 高取吉太郎, 久田四郎, 山田保雄, 中島敏夫, 酒井 勇, 浅野進吾: 含弗素有機化合物合成の研究(第2報) 弗素置換アミノエチルベンツヒドリルエーテル系化合物の合成および薬理学的研究(薬誌 80 (12), 1759-1764 (1960)).
- 5) 高取吉太郎, 浅野進吾: キアンメチン製造条件の検討について(岐阜薬大紀要 7, 60 (1957)).
- 6) 高取吉太郎, 浅野進吾, 白井文夫: 4-メチルアントラニル酸の合成(岐阜薬大紀要 8, 35-37 (1958)).

池田 坦

I 学校の環境衛生に関する研究

- 1) 小瀬洋喜, 池田 坦, 大音晋一: 学校環境衛生の基礎的研究(第3報の2) 積雪地の暖房教室の汚染(衛生化学 8, 2).
- 2) 小瀬洋喜, 池田 坦, 丹羽早起: 学校環境衛生の基礎的研究(第4報) 老朽校舎の天井よりの塵埃落下

- 状況について（衛生化学 6 (2), 137 (1958)).
- 3) 小瀬洋喜, 池田 坦, 森下正三, 川口十久, 荒井昌司, 杉下鉄郎, 中島道子: 学校環境衛生の基礎的研究 (第5報) 給食調理室の空気汚染 (衛生化学 7 (1), 29 (1959)).
 - 4) 小瀬洋喜, 西脇 澄, 森下正三, 生田晃三, 林 領一, 池田 坦: 学校環境衛生の基礎的研究 (第6報) 注入式消毒装置によるプール消毒法について (衛生化学 7 (1), 32 (1959)).
 - 5) 小瀬洋喜, 西脇 澄, 森下正三, 生田晃三, 林 領一, 池田 坦: 学校環境衛生の基礎的研究 (第7報) 拡散式消毒器によるプール消毒法について (衛生化学 7 (1), 33 (1959)).
 - 6) 小瀬洋喜, 森下正三, 生田毅彦, 西脇澄, 旧井治郎, 丸井俊勝, 池田 坦: 学校環境衛生の基礎的研究 (第8報) 大垣市のプール衛生管理と流行性角結膜炎について (衛生化学 7 (1), 35 (1959)).
 - 7) 小瀬洋喜, 池田 坦, 広瀬一雄, 中尾 貢, 安藤茂己, 森下正三, 安藤全治, 丸井俊勝, 白木有之: 学校環境衛生の基礎的研究 (第10報) 岐阜県下の学校用水について (衛生化学 7 (2), 144 (1959)).
 - 8) 小瀬洋喜, 池田 坦, 森下正三, 杉下鉄郎, 大野恭一: 学校環境衛生の基礎的研究 (第11報) 教室の照度について (衛生化学 7 (2), 147 (1959)).
 - 9) 小瀬洋喜, 松居秀夫, 池田 坦, 森下正三, 小木曾源二, 松野数子: 学校環境衛生の基礎的研究 (第15報) 学校内の塵埃について (衛生化学 9 (1), 56 (1963)).
 - 10) 小瀬洋喜, 池田 坦, 中尾 貢, 森下正三, 春日井武司, 棚橋儀弘: 学校環境衛生の基礎的研究 (第17報) 水害時の学校環境衛生の保持について (衛生化学 9 (1), 58 (1963)).

II 環境衛生に関する研究

- 1) 小瀬洋喜, 池田 坦: 注水曝氣式浄化槽の効果とその放流水質について (その1) (用水と廃水 5 (2), 15 (1963)).
- 2) 小瀬洋喜, 池田 坦, 西脇澄, 森下正三: プールの衛生管理に関する研究 (第5報) プール水換水量に関する理論的考察 (用水と廃水 5 (7), 27 (1963)).
- 3) 小瀬洋喜, 池田 坦, 広瀬一雄: 活性汚泥中の放射能について (岐阜薬大紀要 8, 55 (1958)).

III 衛生化学に関する研究

- 1) 小瀬洋喜, 池田 坦, 広瀬一雄: 濾紙電気泳動法の衛生化学への応用研究 (第1報) 氷冷式濾紙電気泳動装置について (岐阜薬大紀要 8, 57 (1958)).
- 2) 小瀬洋喜, 池田 坦, 広瀬一雄: 濾紙電気泳動法の衛生化学への応用研究 (第2報) Sr, Ba, Zr の分離について (岐阜薬大紀要 8, 60 (1958)).
- 3) 小瀬洋喜, 池田 坦: 濾紙電気泳動法の衛生化学への応用研究 (第3報) ウロン酸類の分離について (岐阜薬大紀要 10, 68 (1960)).
- 4) 小瀬洋喜, 池田 坦: 蚕児硬化病菌の代謝産物に関する研究 (2) 赤黽菌培地およびその菌体中の代謝成分 (岐阜薬大紀要 11, 82 (1961)).

中 神 勝

I 運動生理学に関する研究

- 1) 林 領一, 中神 勝: 開眼時と閉眼時の筋力の比較(体育学研究 6 (1), 125 (1960)).

II 特殊体育に関する研究

- 1) 中神 勝, 林 領一, 永田捷一: いわゆる虚弱児童, 生徒の実態とその保健体育指導に関する衛生学的研究(1)(体育学研究 7 (1), 264 (1961)).
- 2) 中神 勝: 同上(2)(学校保健研究 4 (1), 39 (1961)).
- 3) 中神 勝: 同上(5)(学校保健研究 4 (11), 49 (1962)).
- 4) 中神 勝: 同上(3)(学校保健研究 5 (1), 37 (1963)).

IV 保健体育的研究

- 1) 永田捷一, 中村 亮, 岡田 勇, 中神 勝, 早矢仕義雄, 高橋邦郎: トラコーマの社会的撲滅に関する研究(第1部)各年度別成績について(昭和36年度の成績)(日本公衆衛生雑誌 9 (9), 125 (1962)).
- 2) 永田捷一, 不破博徳, 中村 亮, 岡田 勇, 中神 勝, 早矢仕義雄, 高橋邦郎: 学童および就学前年令層における結核感染形成, 特にその地域別傾向について(日本公衆衛生雑誌 9 (9), 142 (1962)).
- 3) 永田捷一, 不破博徳, 中村 亮, 岡田 勇, 中神 勝, 早矢仕義雄, 高橋邦郎: 学童結核と居住環境, 結核有所見学童環境の地域別調査成績についての考察(学校保健研究 4 (11), 49 (1962)).
- 4) 永田捷一, 中村 亮, 岡田 勇, 中神 勝, 早矢仕義雄, 高橋邦郎: トラコーマの社会的撲滅に関する研究(第Ⅲ部)トラコーマに関する衛生学的調査研究(その3)市町村収支決算額からみたトラコーマ罹患率について(2)(学校保健研究 4 (11), 50 (1962)).
- 5) 永田捷一, 中村 亮, 永田峰子, 岡田 勇, 中神 勝, 早矢仕義雄, 高橋邦郎, 清水新一: トラコーマの社会的撲滅に関する研究, トラコーマに関する衛生学的調査研究, 市町村収支決算額からみたトラコーマ罹患率について(岐医紀 10 (1), 別冊 (1962)).

V 社会学的研究

- 1) 永田捷一, 中村 亮, 岡田 勇, 中神 勝, 寺沢正明: 昭和34年度某事業場のトラコーマ検診成績について(Ⅱ)(産業医学 4 (3), 184 (1962)).
- 2) 永田捷一, 中村 亮, 岡田 勇, 中神 勝, 早矢仕義雄: 農村の衛生学的研究(その3)農村家屋の環境衛生学的研究(2)長寿地区の台所について(日本衛生学雑誌 17 (1), 50 (1962)).
- 3) 永田捷一, 中村 亮, 岡田 勇, 中神 勝, 早矢仕義雄: 農村の住まいと暮らしかた(保健の科学 4 (5), 別冊 (1962)).
- 4) 永田捷一, 中村 亮, 岡田 勇, 中神 勝, 早矢仕義雄, 高橋邦郎: 岐阜県における農村の住まいと暮らしかたについての衛生学的研究(日本衛生学雑誌 18 (1), 143 (1963)).

VI 衛 生 学 的 研 究

- 1) 永田捷一, 岩田利三郎, 中神 勝, 中村 亮, 岡田 勇, 岸本専治, 早矢仕義雄: 岐阜県における鉄バクテリアの生物学的ならびにその衛生学的研究(3)(日本衛生学雑誌**17**(1), 36 (1962)).
- 2) 永田捷一, 岸本専治, 中村 亮, 岡田 勇, 中神 勝, 早矢仕義雄, 岩田利三郎: 淡水中のプランクトン, 藻類に関する生物学的ならびに衛生学的研究(日本衛生学雑誌 **17** (1) 36 (1962)).
- 3) 永田捷一, 岸本専治, 中村 亮, 岡田 勇, 中神 勝, 早矢仕義雄, 岩田利三郎, 高橋邦郎: 淡水中のプランクトン, 藻類に関する生物学的ならびに衛生学的研究(5)(日本衛生学雑誌 **18** (1), 207 (1963)).

森 逸 男

I フタレイン系水銀化合物に関する研究

- 1) 大野武男, 森 逸男: フタレイン系誘導体の水銀化合物に関する研究(第4報) クロロフルオレスセインの合成(I)(岐阜薬大紀要 **10**, 60 (1960)).
- 2) 大野武男, 森 逸男, 森 正明, 森 善宣: 同上(第5報) マーキュロクロムの臭素の位置について(その2)(岐阜薬大紀要 **12**, 40 (1962)).

内 藤 純 子

I ビタミン B₂ に 関 す る 研 究

- 1) 堀田一雄, 石黒伊三雄, 田中きみ, 内藤純子: 乳汁におけるビタミン B₂ 3型の分布比とフオスファターゼについて(ビタミン **21**, 204 (1960)).
- 2) 堀田一雄, 石黒伊三雄, 内藤純子: ビタミンB₂ 3型の分離における Crammer 法の検討(ビタミン **22**, 271 (1961)).
- 3) 堀田一雄, 石黒伊三雄, 内藤純子: ビタミン B₂ 欠乏シロネズミのトリプトファン代謝に関する研究(ビタミン **23**, 31 (1961)).

II トリプトファン代謝に関する研究

- 1) 堀田一雄, 石黒伊三雄, 内藤純子, 萩谷博磁: シロネズミ毛髪のキヌレニンに関する研究(I)低タンパク食およびトリプトファン欠乏食投与時の影響について(生化学 **32** (1), 28 (1960)).
- 2) 堀田一雄, 石黒伊三雄, 内藤純子, 萩谷博磁: 同上(II)毛髪キヌレニンとトリプトファン代謝との関係について(生化学 **32** (6), 423 (1960)).
- 3) 堀田一雄, 石黒伊三雄, 内藤純子: 同上(III)毛髪キヌレニンとトリプトファン代謝系に預る酵素活性の関係について(生化学 **33**, 713 (1961)).
- 4) 堀田一雄, 石黒伊三雄, 内藤純子: 同上(IV)トリプトファンピロラーゼの誘導作用と毛髪キヌレニン量について(生化学 **33**, 716 (1961)).

III. 王乳の生化学的研究

- 1) 石黒伊三雄, 内藤純子, 田中きよ子: 王乳に関する栄養学的研究(第1報) 王乳中のビタミン B₁, B₂ の態度について(栄養と食糧, 16, 127 (1963)).
- 2) 石黒伊三雄, 内藤純子, 田中きよ子: 同上(第2報) 王乳中の磷酸化合物の分布と Phosphatase Activity について(栄養と食糧, 16, 130 (1963)).
- 3) 石黒伊三雄・高取吉太郎, 内藤純子, 原田治良: 王乳(ローヤルゼリー)の栄養学的研究(第3報) 王乳に含まれる螢光物質とキヌレニンの含有量について(岐阜薬科大学紀要, 13, 1 (1963)).
- 4) 石黒伊三雄, 内藤純子, 原田治良: 同上(第4報) 王乳中の含窒素化合物と蛋白質の電気泳動的観察について(岐阜薬科大学紀要, 13, 6 (1963)).
- 5) 石黒伊三雄, 内藤純子, 原田治良: 同上(第5) 王乳投与ラットの生育に及ぼす影響について(岐阜薬科大学紀要, 13, 8 (1963)).
- 6) 石黒伊三雄, 内藤純子, 岡田好弘: 同上(第6報) 王乳中に含まれるパロチン様物質の研究(岐阜薬科大学紀要, 13, 12 (1963)).
- 7) 石黒伊三雄, 内藤純子, 篠原力雄, 渡辺政良: 同上(第7報) 王乳の内分泌系に及ぼす影響について岐阜薬科大学紀要, 13, 16 (1963)).

IV. 花粉の生化学的研究

- 1) 石黒伊三雄, 内藤純子, 野口路子, 青木尚恵: 花粉に関する栄養学的研究(第1報) 花粉投与によるラテの生育に及ぼす影響について(岐阜薬科大学紀要, 13, 20 (1963)).

V その他の研究

- 1) 高取吉太郎, 石黒伊三雄, 社本みと子, 内藤純子: DAB 投与ラットの肝臓内銅量の変動について(岐阜薬大紀要 11, 39 (1961)).
- 2) 石黒伊三雄, 高木克育, 内藤純子: 正常人の尿中に発現する螢光物質について(岐阜薬大紀要 9, 61 (1959)).